

令和5年度

ステージラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

事業報告書

一般財団法人 地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人財の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

地域における文化・芸術活動を担う人材の育成に取り組む「研修交流事業」として、財団設立当初から実施している公立文化施設の事業担当者に向けた「ステージラボ」や、市町村長や文化政策担当者に向けた研修があります。

「ステージラボ」は、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムで、初任者に向けたホール入門コースや、事業企画に取り組む職員に向けた自主事業コースなど、職務内容や経験年数に応じた実践的研修コースを複数実施しています。プログラムは、現場経験の豊富な実務家にコーディネーターを委嘱し作成しており、講師と参加者の双方向型の研修となっています。セミナー、グループ討論、ワークショップ等で構成され、特に実演家による芸術体験ワークショップが充実しています。また、先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し、全国各地との交流を図っていることも特徴のひとつです。

令和5年度は、7月に札幌市民交流プラザ（札幌市）で札幌セッション、2月に岡山芸術創造劇場ハレノワ（岡山市）で岡山セッションを開催しました。札幌セッションには45名、岡山セッションには39名の方々が全国から参加し、現在抱えるそれぞれの課題の共有や、検討を共におこないました。

本報告書では、令和5年度に開催した札幌セッション、岡山セッションの実施状況を報告します。

最後に、事業開催にあたりご協力をいただいたコーディネーター、講師、開催館、ご共催いただいた札幌市、岡山市ならびにその他関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

目次

〈本文中の社名、所属、役職等は、事業実施時点のものです〉

I 事業概要	
1 事業概要	3
2 開催実績	4
3 都道府県別参加者数	8
II 令和5年度事業	
1 事業概要	11
2 参加者の属性	12
3 コーディネーター・講師一覧	14
4 スタッフ一覧	16
5 実施日程	17
III ステージラボ 札幌セッション	
1 コーディネーター・講師紹介	21
2 研修プログラム	24
3 各コースについて	
(1) ホール入門コース	
総評	28
ゼミ記録	29
(2) 自主事業コース	
総評	34
ゼミ記録	35
(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース	
総評	39
ゼミ記録	40
4 共通プログラム	44
IV ステージラボ 岡山セッション	
1 コーディネーター・講師紹介	47
2 研修プログラム	49
3 各コースについて	
(1) ホール入門コース	
総評	53
ゼミ記録	55
(2) 自主事業コース	
総評	59
ゼミ記録	61
4 共通プログラム	65
IV 参加者リスト	
1 ステージラボ 札幌セッション	69
2 ステージラボ 岡山セッション	76

I 事業概要

Ⅰ 事業概要

1 事業概要

(1) 事業目的

地域における文化・芸術の創造拠点となる公共ホール・劇場等や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムの実施を通して、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携による効果的な芸術支援（育成）の環境を整える。

(2) 事業内容

① 対象者

公共ホール・劇場等及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員

② 開催回数及び実施時期

原則年度2回。年度の前半及び後半に各1回ずつ

3～4日間程度の集中研修

③ 会場

全国各地の公共ホールや劇場などにおいて実施

(3) 事業の特徴

① 集中ゼミの実施

3～4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成（1セッション2～3コース程度）。また、参加応募時にアンケートを提出いただき、事前に参加者の問題意識や参加ニーズを把握することで、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容となるよう努めている。

③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

⑤ 参加者同士のネットワークづくり

先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し、研修を通じて全国各地から集まった参加者同士の交流を深める。

1 事業概要

2 開催実績

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 23名 音楽コース 23名 演劇ダンスコース 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 18名 音楽コース 19名 演劇コース 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース 21名 ステージ創造環境コース 12名 ステージ鑑賞共感コース 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 23名 音楽コース 33名 演劇コース 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 21名 音楽事業コース 18名 演劇事業コース 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース 17名 ホール運営Ⅰコース 22名 ホール運営Ⅱコース 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース 19名 ホール運営入門コース 20名 自主事業(音楽)コース 15名 自主事業(演劇・ダンス)コース 15名
	世田谷セッション	平成10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース 17名 ホール入門コース 26名 演劇コース 16名 音楽コース 19名
平成10年度	札幌セッション	平成10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース 14名 ホール入門コース 20名 演劇コース 15名 音楽コース 20名
	神戸セッション	平成11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジセンター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース 15名 ホール入門コース 24名 演劇・ダンスコース 11名 音楽コース 19名
平成11年度	静岡セッション	平成11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンションアーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース 25名 ホール運営Ⅰコース 20名 ホール運営Ⅱコース 21名
	高知セッション	平成12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース 14名 ホール入門コース 20名 自主事業コース 21名 美術コース 15名
平成12年度	金沢セッション	平成12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 26名 演劇コース 19名 音楽コース 20名 美術コース 16名
	熊本セッション	平成13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 19名 運営基礎コース 20名 演劇コース 12名 音楽コース 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫 1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年9月3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年3月9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年3月6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年12月4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	リゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ 愛知セッション	平成27年1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月17日 ～ 2月20日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成27年度	札幌セッション	平成27年 7月 7日 ～ 7月 10日	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	43名	ホール入門コース 17名 事業入門コース 10名 音楽コース 16名
	(東京・赤坂開催)	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース 17名
	北九州セッション	平成28年 2月 16日 ～ 2月 19日	北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	48名	ホール入門コース 20名 音楽コース 15名 演劇コース 13名
平成28年度	上田セッション	平成28年 7月 5日 ～ 7月 8日	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター (長野県上田市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 17名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名
	(東京・赤坂開催)	平成28年10月12日～14日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	豊田セッション	平成29年 2月 21日 ～ 2月 24日	豊田市民文化会館 (愛知県豊田市)	59名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成29年度	高知セッション	平成29年 7月 4日 ～ 7月 7日	高知県立美術館 (高知県高知市)	41名	ホール入門コース 17名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 10名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成29年10月16日～18日	地域創造会議室	19名	公立ホール・劇場マネージャーコース 19名
	横浜セッション	平成30年 2月 20日 ～ 2月 23日	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市)	42名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名
平成30年度	滋賀セッション	平成30年 7月 3日 ～ 7月 6日	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県大津市)	56名	ホール入門コース 21名 事業入門コース 21名 自主事業(音楽)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成30年10月16日～18日	地域創造会議室	14名	公立ホール・劇場マネージャーコース 14名
令和元年度	富士見セッション	令和 元年 6月 25日 ～ 6月 28日	富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ (埼玉県富士見市)	41名	ホール入門コース 22名 自主事業コース 19名
	いわきセッション	令和 2年 2月 18日 ～ 2月 21日	いわき芸術文化交流館アリオス (福島県いわき市)	44名	ホール入門コース 20名 自主事業(音楽)コース 16名 公立ホール・劇場マネージャーコース 8名
令和2年度	オンラインセッション	令和 3年 2月 24日 ～ 2月 26日	オンライン	129名	シンポジウム 一部 56名 二部 53名 ワークショッププログラム 20名
令和3年度	豊橋セッション	令和 4年 2月 15日 ～ 2月 18日	穂の国とよはし芸術劇場PLAT (愛知県豊橋市)	38名	ホール入門コース 13名 自主事業コース 13名 公立ホール・劇場マネージャーコース 12名
令和4年度	大分セッション	令和 4年 7月 5日 ～ 7月 8日	iichiko総合文化センター (大分県大分市)	52名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 21名 公立ホール・劇場マネージャーコース 11名
	川崎セッション	令和 5年 2月 18日 ～ 2月 21日	ミュージザ川崎シンフォニーホール (神奈川県川崎市)	39名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 19名
令和5年度	札幌セッション	令和 5年 7月 4日 ～ 7月 7日	札幌市民交流プラザ (北海道札幌市)	45名	ホール入門コース 18名 自主事業コース 15名 公立ホール・劇場マネージャーコース 12名
	岡山セッション	令和 6年 2月 6日 ～ 2月 9日	岡山芸術創造劇場ハレノワ (岡山県岡山市)	39名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 19名

3,617名(令和5年度終了時点での参加者)

1 事業概要

3 都道府県別参加者数

単位：名

	累計		
		うち 直近5年間	
			うち 令和5年度
北海道	145	33	10
青森県	20	5	0
岩手県	56	12	0
宮城県	48	7	2
秋田県	11	1	0
山形県	28	9	1
福島県	49	5	2
茨城県	80	13	0
栃木県	28	8	1
群馬県	39	4	1
埼玉県	130	19	0
千葉県	52	6	1
東京都	212	17	1
神奈川県	189	19	3
新潟県	82	4	1
富山県	94	8	4
石川県	40	2	1
福井県	41	5	0
山梨県	8	0	0
長野県	100	22	7
岐阜県	130	3	1
静岡県	143	9	2
愛知県	247	34	4
三重県	65	7	1
滋賀県	78	1	1
京都府	46	3	1
大阪府	126	20	6
兵庫県	168	21	6
奈良県	20	0	0
和歌山県	8	0	0
鳥取県	72	9	2
島根県	46	7	3
岡山県	49	7	2
広島県	121	6	2
山口県	56	2	0
徳島県	30	2	1
香川県	26	1	0
愛媛県	19	2	0
高知県	47	6	2
福岡県	280	45	6
佐賀県	19	1	0
長崎県	97	8	3
熊本県	68	8	2
大分県	75	15	1
宮崎県	45	7	1
鹿児島県	37	3	1
沖縄県	47	1	1
合計	¥3,617	427	84

Ⅱ 令和5年度事業

II 令和5年度事業

1 事業概要

(1) ステージラボ 札幌セッション

開催期日	令和5年7月4日(火)～7月7日(金)
開催会場	札幌市民交流プラザ (北海道札幌市中央区北1条西1丁目)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：札幌市民交流プラザ、札幌市 後援：北海道
対象者※	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む。)において、業務経験年数1年半未満程度(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員。 「自主事業コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員。 「公立ホール・劇場マネージャーコース」 公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

(2) ステージラボ 岡山セッション

開催期日	令和6年2月6日(火)～2月9日(金)
開催会場	岡山芸術創造劇場ハレノワ (岡山県岡山市北区表町3-11-50)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：岡山芸術創造劇場ハレノワ、岡山市 後援：岡山県
対象者※	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む。)において、業務経験年数1年半未満程度(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員。 「自主事業コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員。

※指定管理者である民間事業者の職員を含む。

II 令和5年度事業

2 参加者の属性

(1) 札幌セッション

コース名	ホール入門	自主事業	公立ホール・劇場 マネージャー	合計
参加者数	18	15	12	45

参考：参加申込者数46名

①都道府県別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
北海道	3	2	2	7
青森				
岩手				
宮城	2			2
秋田				
山形				
福島		1		1
茨城				
栃木				
群馬	1			1
埼玉				
千葉				
東京				
神奈川	2		1	3
新潟				
富山	2	1		3
石川		1		1
福井				
山梨				
長野	1	2	1	4
岐阜	1			1
静岡				
愛知	1		1	2
三重	1			1
滋賀		1		1
京都		1		1
大阪	1	1	2	4
兵庫			2	2
奈良				
和歌山				
鳥取			1	1
島根		2		2
岡山				
広島		1		1
山口				
徳島	1			1
香川				
愛媛				
高知		1		1
福岡	2	1	1	4
佐賀				
長崎				
熊本				
大分			1	1
宮崎				
鹿児島				
沖縄				
合計	18	15	12	45

②採用形態別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	2	5	2	9
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	16	10	8	34
施設管理団体（民間事業者）採用職員			2	2
その他				
合計	18	15	12	45

③性別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
男	3	5	7	15
女	15	10	5	30
合計	18	15	12	45

④年代別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
10代	1			1
20代	11	9		20
30代	4	3	2	9
40代	2	3	4	9
50代			3	3
60代			3	3
合計	18	15	12	45

(2) 岡山セッション

コース名	ホール入門	自主事業	合計
参加者数	20	19	39

参考：参加申込者数43名

①都道府県別

	入門	自主事業	合計
北海道	1	2	3
青森			
岩手			
宮城			
秋田			
山形	1		1
福島		1	1
茨城			
栃木		1	1
群馬			
埼玉			
千葉	1		1
東京		1	1
神奈川			
新潟		1	1
富山		1	1
石川			
福井			
山梨			
長野	2	1	3
岐阜			
静岡	1	1	2
愛知	2		2
三重			
滋賀			
京都			
大阪	1	1	2
兵庫		4	4
奈良			
和歌山			
鳥取	1		1
島根	1		1
岡山	1	1	2
広島		1	1
山口			
徳島			
香川			
愛媛			
高知	1		1
福岡	1	1	2
佐賀			
長崎	1	2	3
熊本	2		2
大分			
宮崎	1		1
鹿児島	1		1
沖縄	1		1
合計	20	19	39

②採用形態別

	入門	自主事業	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	3	2	5
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	13	14	27
施設管理団体（民間事業者）採用職員	3	1	4
その他	1	2	3
合計	20	19	39

③性別

	入門	自主事業	合計
男	5	4	9
女	15	15	30
合計	20	19	39

④年代別

	入門	自主事業	合計
20代	13	10	23
30代	5	7	12
40代	2	1	3
50代		1	1
合計	20	19	39

II 令和5年度事業

3 コーディネーター・講師一覧

(1) ステージラボ 札幌セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

荻原 康子（上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー）

○自主事業コース

仕田 佳経（一般財団法人地域創造 ディレクター、おんかつコーディネーター）

○公立ホール・劇場マネージャーコース

吉本 光宏（合同会社文化commons研究所 代表）

【講師】

○ホール入門コース

小田井 真美（さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター、
アートトリサーチセンター）

上野 喜浩（公益財団法人群馬交響楽団 音楽主幹）

本郷 麻衣（木ノ下歌舞伎 制作）

白神 ももこ（振付家・演出家・ダンサー、モモンガ・コンプレックス主宰、富士見市民文化
会館キラリ☆ふじみ 芸術監督）

○自主事業コース

桜井 しおり（ワークショップ・アーティストおとみつく共同代表、東京文化会館 ワークシ
ョップリーダー、おんかつコーディネーター）

石上 真由子（ヴァイオリニスト）

加藤 文枝（チェリスト）

酒井 有彩（ピアニスト）

○公立ホール・劇場マネージャーコース

セレノグラフィカ

隅地 茉歩（振付家、ダンサー）

阿比留 修一（ダンサー）

小川 智紀（NPO 法人 ST スポット横浜 理事長）

小澤 櫻作（竹田市総合文化ホール グランツたけた チーフプロデューサー、横手市民会館
管理運営アドバイザー）

○共通プログラム

高橋 秀典（札幌市民交流プラザ劇場事業課長・チーフプロデューサー）

鈴木 明倫（ダンサー）、金澤 緋彩（トランペット奏者）、小野 健悟（作・編曲／サクソ
奏者）、鳴海 賢治（ギタリスト）、長谷川 加奈（ヴァイオリニスト）、林 佳一郎（ピアニ
スト）、青木 務（ベーシスト）、酒井 颯太（ドラマー）、岡本 育美（サクソ奏者）、

DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST（編曲／DJ）

(2) ステージラボ 岡山セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

多田 淳之介（演出家、東京デスロック主宰）

○自主事業コース

セレノグラフィカ

隅地 茉歩（振付家、ダンサー）

阿比留 修一（ダンサー）

【講師】

○ホール入門コース

古橋 果林（音楽ワークショップ・リーダー／ファシリテーター、大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻助手）

植松 侑子（舞台芸術制作、上級ハラスメント対策アドバイザー）

岩渕 貞太（岩渕禎太 身体地図主宰、振付家、ダンサー）

加賀田 浩二（岡山芸術創造劇場ハレノワ 事業グループ 制作・学芸チーフ）

佐藤 拓道（たんぼぼの家アートセンターHANA 副施設長）

○自主事業コース

津村 卓（一般財団法人地域創造 プロデューサー）

鈴木 ユキオ（振付家、ダンサー）

持明院 由子（京都市ユースサービス協会 京都若者サポートステーション 相談支援員）

鈴木 章浩（二葉むさしが丘学園 自立支援コーディネーター）

永松 玲子（レインボードロップス）

高橋 優（元 北九州芸術劇場舞台事業課）

栗林 礼也（一般財団法人地域創造 ディレクター）

○共通プログラム

加賀田 浩二（岡山芸術創造劇場ハレノワ 事業グループ 制作・学芸チーフ）

菅原 直樹（劇作家、演出家、俳優、介護福祉士、「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰）

II 令和5年度事業

4 スタッフ一覧

ステージラボ 札幌セッション

○一般財団法人地域創造

中村 賢（事務局長 兼 芸術環境部長）

濱田 裕正（芸術環境部 企画課長）

津村 卓（プロデューサー）

児玉 真（プロデューサー）

〔ホール入門コース〕 石本 悠二

〔自主事業コース〕 岩崎 亜美

〔公立ホール・劇場マネージャーコース〕 管藤 恵美

〔事務局〕 栗林 礼也、藤原 加奈、田之頭 麻衣、林 裕太郎

○札幌市民交流プラザ

松平 健次（管理課長）

泉澤 麻由子（管理課 業務係長）

青井 拓也（広報営業課 広報営業係長）

〔ホール入門コース〕 井原 啓允

〔自主事業コース〕 佐藤 令奈

〔公立ホール・劇場マネージャーコース〕 長瀬 麻美

ステージラボ 岡山セッション

○一般財団法人地域創造

中村 賢（事務局長 兼 芸術環境部長）

濱田 裕正（芸術環境部 企画課長）

津村 卓（プロデューサー）

児玉 真（プロデューサー）

〔ホール入門コース〕 田中 希和

〔自主事業コース〕 天野 めぐみ

〔事務局〕 栗林 礼也、仕田 佳経、藤原 加奈、田之頭 麻衣、管藤 恵美、林 裕太郎

○岡山芸術創造劇場 ハレノワ

草加 叔也（劇場長）

渡辺 弘（プロデューサー）

尾中 孝次（テクニカルディレクター）

加賀田 浩二（事業グループ 制作・学芸チーフ）

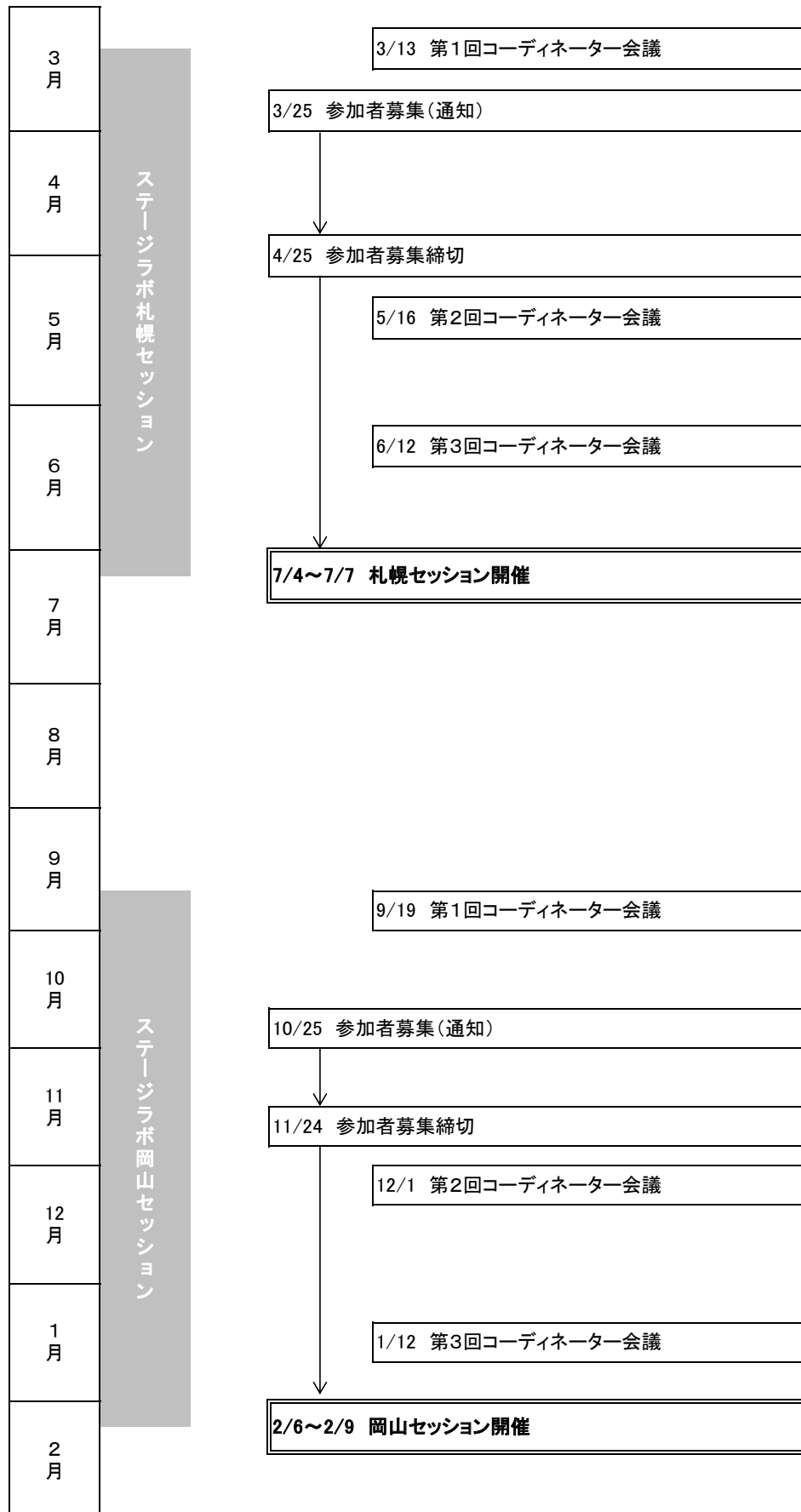
野田 景子（事業グループ 制作・学芸）

〔ホール入門コース〕 宮嶋 泰明

〔自主事業コース〕 西角 紫帆

II 令和5年度事業

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



Ⅲ ステージラボ

札幌セッション

III ステージラボ 札幌セッション

1 コーディネーター・講師紹介

(1) ホール入門コース

●コーディネーター

荻原 康子（上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー）

[メッセージ]

劇場・ホールの実務に日々携わる中で、地域のさまざまなステークホルダーからの声が聞こえてくると感じます。公演に来られたお客様、施設を利用される方々、ホールの外に出ればアウトリーチ先の学校や、地元で活動する文化団体、商店街などコミュニティ組織との接点も出てくるでしょう。アートに興味のない人もいれば、関心はあってもホールに来られない人もいるかもしれない。さて、限られた予算と人員で、自分たちが拠って立つ地域のために何を優先すべきか、誰と連携できるのか…どこの現場も似たような悩みを抱えていませんか。そこでまず、公立文化施設に対する期待がどう変わってきたのかを概観したうえで、事業推進のパートナーとなるアーティストや制作者のこだわりを知り、そのクリエイティビティに触れ、可能性を感じていただくことから始めます。レクチャーだけでなく、ワークショップやグループディスカッションを交えて、参加者の皆さんと一緒に「わがまち」の文化拠点としてこうありたい！を考えます。

[プロフィール]

いくつかのアーティスト・イン・レジデンスの運営に携わり、1994年 INAX 文化推進部、1996年キュレーター・オフィスにて展覧会企画等に従事。2001年企業メセナ協議会に入局、主に顕彰事業と機関誌を担当し、延べ500件ほどの企業メセナ（芸術文化支援）の現場取材する。他にメセナ・プログラムの調査や助成事業の制度設計、アサヒビールのメセナ活動のコーディネート等に携わり、2011年事務局長に就任。

2017年に墨田区文化振興財団常務理事就任、区立文化施設の運営とともに地域資源を活用するアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」を推進し、現在は統括ディレクター。2020年より上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）の総合プロデューサーを務める。

●講師

小田井 真美（さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター、アートとリサーチセンター）

上野 喜浩（（公財）群馬交響楽団 音楽主幹）

本郷 麻衣（木ノ下歌舞伎 制作）

白神 ももこ（振付家・演出家・ダンサー、モモンガ・コンプレックス主宰、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 芸術監督）

(2) 自主事業コース

●コーディネーター

仕田 佳経（一般財団法人地域創造ディレクター、おんかつコーディネーター）

[メッセージ]

近年「多様性を認め合う社会」が求められています。人は独自の道を歩み、それぞれが主観をお持ちで、もちろんその主観には正解がありません。主観と主観がぶつかり合うことで共感が生まれます。場づくりはとても重要ですが、その場は付度の場では意味がありません。公立文化施設で働く同志やゲストに迎えるアーティストや講師と出会い、お互いがアウトプットすることで新たな気づきがあるはずです。この機会に参加者の皆さんと、「堅苦しい」「敷居が高い」などと言われがちな「クラシック音楽」で“遊び”ながら、一つのプログラムを作り上げる時間を共有したいと思います。自分たちで事業を制作し発信する中で、事業担当者のみならず、地域住民、観客、そしてアーティストも共に育っていける可能性を模索してみませんか。この4日間の経験が、ご自身の地域ですでに関わり、実施している事業をもう一步深掘りできるような、また新たな事業の足掛かりとなるような“何か”を得ていただければ幸いです。

[プロフィール]

静岡県富士市出身。東京藝術大学音楽学部ピアノ専攻、ベルリン音楽大学“ハンス＝アイスラー”ピアノ専攻を修了。2012年4月より一般財団法人町田市文化・国際交流財団の事業担当として町田市民ホール及び和光大学ポプリホール鶴川に勤務。2015年よりプロデューサーとして事業を統括し、2016年から町田市民ホール副館長を兼務。2018年より2年間一般財団法人地域創造に派遣され邦楽事業やおんかつ事業を担当。2020年4月より東京藝術大学音楽学部准教授（早期教育リサーチセンター）として、早期教育プロジェクトと東京藝大ジュニア・アカデミーの運営に携わる。2022年4月より現職。

●講師

桜井 しおり（ワークショップ・アーティストおとみっく共同代表、東京文化会館ワークショップリーダー、おんかつコーディネーター）

石上 真由子（ヴァイオリニスト）

加藤 文枝（チェリスト）

酒井 有彩（ピアニスト）

(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

●コーディネーター

吉本 光宏 (合同会社文化コモンズ研究所 代表)

[メッセージ]

新型コロナの感染拡大は、地域における公共劇場・音楽堂の運営に甚大な影響を与えましたが、同時に文化芸術の役割や価値、あるべき姿が問い直されるきっかけとなりました。新型コロナによって人々は行動変容を迫られ、地域の抱える問題点や課題、生きにくさを抱えた人たちの存在が、今まで以上に顕在化しました。

文化芸術は不要不急という声がある一方で、文化施設や芸術団体の果敢な取り組みによって芸術に触れ、安らぎや勇気を与えられた人々は少なくありません。東日本大震災の被災地の人々が文化芸術を通して地域のきずなや誇り、生きる喜びを取り戻していったように、新型コロナで疲弊した社会が回復する過程でも、文化芸術の果たすべき役割は小さくありません。

地域の抱える課題が複雑化し、人々が将来に不安を感じる中で、公共劇場や音楽堂には何が期待されているのか。昨今重視されるようになった文化芸術の経済的・社会的価値と本質的価値をどのようにとらえるべきか。今一度、自身の文化施設のあるべき姿を見つめ直し、これからの運営や事業について皆さんと一緒に考えたいと思います。

[プロフィール]

1958年徳島県生。早稲田大学大学院(都市計画)修了後、社会工学研究所等を経て、1989年からニッセイ基礎研究所。文化政策やアートマネジメント、創造都市などの調査研究に携わるとともに、世田谷パブリックシアター、いわきアリオス、北九州芸術劇場、上田市サントミュージーゼなどの公共劇場・音楽堂の開発や事業運営評価調査などに取り組む。

文化審議会委員、東京芸術文化評議会評議員、(公社)企業メセナ協議会理事、日本文化政策学会理事、東京藝術大学非常勤講師などを歴任。主な著作に「文化からの復興—市民と震災といわきアリオスと(水曜社)」「アート戦略都市(鹿島出版会)」「再考、文化政策(ニッセイ基礎研究所 所報)」など。

●講師

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家、ダンサー)

阿比留 修一 (ダンサー)

小川 智紀 (NPO 法人 ST スポット横浜 理事長)

小澤 櫻作 (竹田市総合文化ホール グランツたけた チーフプロデューサー、横手市民会館 管理運営アドバイザー)

III ステージラボ 札幌セッション

2 研修プログラム

■ 7月4日（火） 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 荻原 康子 上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー	コーディネーター 仕田 佳経 一般財団法人地域創造ディレクター、 おんかつコーディネーター	コーディネーター 吉本 光宏 合同会社文化コモンズ研究所 代表
主会場	SCARTSコート	控室402	クリエイティブスタジオ
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30～ 受付		
	14:00～14:50 開講式・オリエンテーション 会場：クリエイティブスタジオ		
15:00			
16:00	15:00～16:00 キックオフ 「となりは何をするぞ？ーお互いを知り合おう」 進行：荻原 康子 会場：SCARTSコート	15:00～16:30 ゼミ1 「お互いを知る」 講師：仕田 佳経、桜井 しおり 会場：控室402	15:00～15:30 ゼミ1 「自己紹介&グルーピング」 講師：吉本 光宏 会場：クリエイティブスタジオ
	休憩		15:30～17:30 ゼミ2 レクチャー&ワークショップ 「身体から障害を考える」 講師：セレノグラフィカ 会場：クリエイティブスタジオ
17:00	16:15～17:30 ゼミ1 「75分で知る日本の文化振興の歩み」 講師：荻原 康子 会場：SCARTSコート	16:30～17:30 ゼミ2 「クラシック音楽を活用した事業」 講師：仕田 佳経 会場：控室402	
18:00	休憩・移動	休憩・移動	休憩・移動
19:00	18:00～19:30 全体交流会 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌 ルセルナホール（12F）		
20:00			
21:00			

■ 7月5日（水） 第2日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 荻原 康子 上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー	コーディネーター 仕田 佳経 一般財団法人地域創造ディレクター、 おんかつコーディネーター	コーディネーター 吉本 光宏 合同会社文化commons研究所 代表
主会場	控室403+404	控室402	SCARTSミーティングルーム1・2
10:00			
11:00	10:00～12:00 ゼミ2 「アーティストが地域に 滞在すると何が起きる？」 講師：小田井 真美 会場：さっぽろ天神山アートスタジオ	10:00～12:30 ゼミ3 「音楽ワークショップ体験」 講師：桜井 しおり 会場：控室402	10:00～11:30 ゼミ3 「劇場・ホールを取り巻く環境変化を知る」 講師：吉本 光宏 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
12:00	(適宜休憩)		昼食・休憩
13:00	移動・昼食・休憩	昼食・休憩	12:30～14:00 ゼミ4 「文化芸術から地域の 課題と向き合うために」 講師：小川 智紀 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
14:00	13:30～15:00 ゼミ3 「劇場・ホールのお仕事、棚卸し」 講師：上野 喜浩、荻原 康子 会場：控室403+404	13:30～15:15 ゼミ4-① 「アウトリーチプログラムの素材①②」 講師：石上 真由子、加藤 文枝、 酒井 有彩 会場：控室402	休憩
15:00	休憩	休憩	14:10～15:40 ゼミ5 「地域の劇場・ホール経営の現場に学ぶ」 講師：小澤 櫻作 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
16:00	15:15～17:00 ゼミ4 「音楽ホール×オーケストラ、 地域に何ができるだろう？」 講師：上野 喜浩 会場：控室403+404	15:30～17:00 ゼミ4-② 「アウトリーチプログラムの素材③」 講師：仕田 佳経、桜井 しおり 会場：控室402	休憩
17:00	休憩・移動	休憩・移動	15:50～17:15 ゼミ6 「グループワーク：自身の劇場・ホールと向き合う」 講師：小川 智紀、小澤 櫻作、吉本 光宏 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
18:00	17:30～19:30 共通プログラム「Creative Art Mix特別企画 コンテンポラリーダンスワークショップ」 講師：鈴木 明倫、金澤 緋彩、小野 健悟、鳴海 賢治、 長谷川 加奈、林 佳一郎、青木 務、酒井 颯太、 岡本 育美、DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST 会場：クリエイティブスタジオ		
19:00			
20:00			

■ 7月6日（木） 第3日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 荻原 康子 上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー	コーディネーター 仕田 佳経 一般財団法人地域創造ディレクター、 おんかつコーディネーター	コーディネーター 吉本 光宏 合同会社文化コモンズ研究所 代表
主会場	クリエイティブスタジオ	控室402	SCARTSミーティングルーム1・2
10:00			
11:00	10:00～12:00 ゼミ5 「演劇をつくる、制作の仕事って？」 講師：本郷 麻衣 会場：クリエイティブスタジオ	10:00～11:45 ゼミ5-① 「実際に作る（グループワーク）①」 講師：仕田 佳経、桜井 しおり 会場：控室402（403+404）	10:00～12:00 ゼミ7 「発表と意見交換」 講師：吉本 光宏 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	12:00～12:30 アンケート記入・休憩
13:00			12:30～13:00 修了式 会場：SCARTSミーティングルーム1・2
14:00	13:00～15:00 ゼミ6 「ダンスワークショップ ：からだに尋ねてみる」 講師：白神 ももこ 会場：クリエイティブスタジオ	13:00～14:30 ゼミ5-② 「実際に作る（グループワーク）②」 講師：石上 真由子、加藤 文枝、 酒井 有彩、（桜井 しおり、仕田 佳経） 会場：控室402（403+404）	
15:00	休憩	休憩	
16:00	15:15～16:45 ゼミ7 「地域の物語を探る、人とかかわる」 講師：白神 ももこ、本郷 麻衣、 荻原 康子 会場：クリエイティブスタジオ	14:45～19:30 ゼミ5-③ 「実際に作る（グループワーク）③」 講師：石上 真由子、加藤 文枝、 酒井 有彩 会場：控室402	
17:00	休憩		
18:00	17:00～19:30 ゼミ8 「グループディスカッション① 地域とつながるプログラムを考える」 進行：荻原 康子 会場：クリエイティブスタジオ		
19:00			
20:00			

■ 7月7日（金） 第4日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 荻原 康子 上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー	コーディネーター 仕田 佳経 一般財団法人地域創造ディレクター、 おんかつコーディネーター	コーディネーター 吉本 光宏 合同会社文化commons研究所 代表
主会場	クリエイティブスタジオ	控室402	
9:00			
10:00			
11:00	10:00～11:30 ゼミ9 「グループディスカッション② 地域から愛されるホールって何？」 進行：荻原 康子 会場：クリエイティブスタジオ	10:00～11:30 ゼミ6 「振り返りと今後に向けて」 講師：仕田 佳経 会場：控室402	
12:00	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動	
13:00	12:00～13:00 修了式 会場：クリエイティブスタジオ		
14:00	※修了式後、各コース毎に解散	※修了式後、各コース毎に解散	
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			

III ステージラボ 札幌セッション

3 各コースについて

(1) ホール入門コース

①総評

コーディネーター 荻原 康子

このたび入門コースのコーディネーターを務めさせていただくにあたり、プログラムを考える真ん中に置いたテーマは「地域」でした。自らが勤める公共劇場・ホールはどのような地域に建っているのか、人口構成はどのような状況で主要な産業は何で、課題や魅力はどこにあるのかを、受講者の皆さんには事前に分析したうえで参加してもらいました。そして、なぜ全国各地に公立の文化施設があり、どのような役割や期待を（地域において）担っているのかを、明治以降の文化政策や時代背景の変遷と共に概観。これは私自身、大掴みでいいから、なるべく早い段階で知っておきたかったことであり、現場で経験を積みながら（地域と向き合って）得た実感を強調してお伝えしたつもりです。

講師にお迎えしたのは、それぞれ異なるフィールドや立場にいらながらも、地域とのかかわりを探り、独自の資源を活かすアプローチをされている方々です。さっぽろ天神山アートスタジオの小田井真美さんは、アーティストを小学校に滞在させたり、雪に覆われる札幌がいかに創造力を刺激するかを試したりするプロジェクトで、アーティストが地域と接続したときの予測不能な出来事の面白さを示しました。群馬交響楽団の上野喜浩さんは、長らく継続している「移動音楽教室」をはじめ地域でオーケストラの存在感を高めるにはどうするか、現状の工夫や楽団の経営方針にも言及して幅広い取り組みを紹介。木ノ下歌舞伎の本郷麻衣さんは、作品上演に至るまでの制作プロセスを詳らかにするとともに、各地を巡りながら考える劇場や地域とのつながり方への思いを語りました。白神ももこさんは富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督として、地域の人を劇場の日常で遭遇させる活動方針や具体的な取り組みを挙げ、瀬戸内国際芸術祭では木ノ下歌舞伎に演出・振付で参加し、瀬戸内の島々に残る伝承や芸能から作品を創造した事例を紹介してくれました。

講師のプレゼンテーションの端々に共通してのぼったフレーズは「資源」、劇場・ホールという資源、アーティストという資源、地域固有の自然や歴史という資源、これらを結び付けることが、地域の創造拠点として事業を続ける必然性をいっそう強くするのだと、あらためて学ばせていただきました。

これらの講義内容を踏まえた上で、受講者みんなで考えるグループディスカッションが本プログラムの眼目です。まずは、自分たちがやりたいコミュニティプログラムや地域に伝えるための有効な手法について意見を交わしたうえで、最後のゼミでは「地域から愛されるホールって何？」をテーマに、具体的に3つのホールをモデルに議論を掘り下げます。劇場・ホールの利用者や観客だけでなく、地域にはどのようなステークホルダーが存在しているのかを洗い出し、無関心層にもどうすれば情報が届くか、催しがなくても心地よく滞在してもらおう場となるにはどうするかなど、さまざまなアイデアと手法が編み出されました。劇場・ホールの中でどのような事業を行うかよりも、地域の「公共財」としてどうふるまい、活用されたいかという論点が多かったのが印象的でした。

この4日間、18名の受講者の皆さんは、よく他者の話を聞き、学び、考え、踊り、食べ、笑っていたと思います。短い期間ながらチームとなった方々、今回の経験が日々の業務に活かされるとともに、ステージラボ札幌での出会いがネットワークとなり、今後も何かしらつながる機会があることを願っています。

(1) ホール入門コース

②ゼミ記録

第1日 7月4日(火)

キックオフ「となりは何をする人ぞ?—お互いを知り合おう」

進行：荻原 康子

18名の受講者を6名ずつ、札幌市の木・鳥・花にちなんで「ライラック」「カッコウ」「スズラン」の3つに分け、まずはグループ内で自己紹介。どこのホールで何をしているか、わが地域のイチ押し、ステージラボへの参加動機、最近ハマっていることを、それぞれに話してもらいました。その後、グループ内でペアを組み、パートナーとなった相手を入門コースのメンバー全員に「他己紹介」。これから4日間、一緒に過ごす仲間について第一印象を加えて紹介し、まずは、お互いを知り合うことから始めました。



ゼミ1「75分で知る日本の文化振興の歩み」

講師：荻原 康子

いまのうちに知っておこう！ ということで、明治期まで遡り、日本の文化振興の歩みをざっくり概観。まず今日に至る文化芸術の基盤を築いた民間の成果として、創業者の作品蒐集にもとづく美術館開設、三越劇場や宝塚歌劇団、日生劇場等の成り立ちを紹介。次いで戦後、文化財保護法や博物館法の整備、文化庁設置など国の動きから、高度経済成長を背景に「ものの豊かさから心の豊かさへ」を標榜し、「地方の時代」が謳われた1980年代の公立文化施設の建設ラッシュまでの流れを抑えました。そして90年代以降、アートマネジメントや人材育成の取り組み、地域活性や教育・福祉などの領域との関わり、アートNPOに代表される担い手の広がりにも触れました。社会の動向と併行して、文化芸術振興基本法の成立と基本法への改正、劇場法、文化観光推進法の施行など、文化芸術に対する期待がいつそう高まり、地域における劇場・ホールの役割が幅広くなっていることを共有しました。



第2日 7月5日(水)

ゼミ2「アーティストが地域に滞在すると何が起きる？」

講師：小田井 真美

澄川駅から、さっぽろ天神山アートスタジオへ。札幌国際芸術祭2014を機にアーティスト・イン・レジデンス拠点として活用し始めた施設で、国内外のアーティストがリサーチや創作を行うため、一定期間滞在する設備があり、活動に必要な情報を提供しサポートするスタッフが常駐しています。ディレクターの小田井さんは、アーティストが札幌で何を生み出すかを目撃し、地域への橋渡し役となりながら、さらにアプローチの

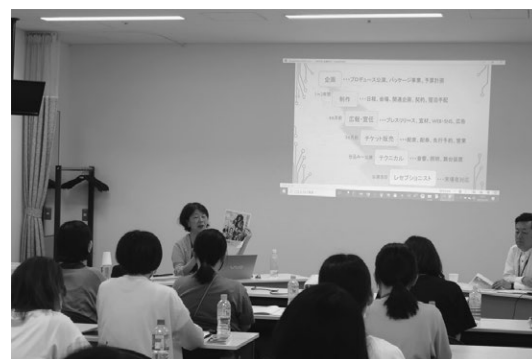


範囲を広げてきました。小学校の一角をスタジオに、アーティストが転校生として制作しながら過ごす「アーティスト・イン・スクール」の取り組みは、すでに道内90校に及びます。また、アーティストの提案で始めた「Sapporo2」は、雪で白く覆いつくされる「Sapporo」のもう一つの世界「2」で、誰もが、どれだけ創造的なアクションを起こせるかを促すプロジェクトです。アーティストと地域との接点をつくることで、思いもよらぬ出来事が起きる面白さを知りました。

ゼミ3「劇場・ホールのお仕事、棚卸し」

講師：上野 喜浩、荻原 康子

講師両者に縁あるすみだトリフォニーホール（墨田区）とサントミュージゼ（上田市）を例に取りながら、ホールの形態による特徴や事業の組み立て方を比較。特定の楽団の活動本拠地となるフランチャイズ制と、準フランチャイズやレジデントとして、オーケストラやアーティストを招く展開など、それぞれの創意工夫を見ていきました。



次に、企画から公演までの流れとあわせてスタッフの仕事の棚卸し、加えて、劇場・ホールにおける芸術監督の役割に注目しました。そして公立文化施設のステークホルダーにはどのような人たちがいるのか、観客をはじめ施設利用者やアーティスト、スタッフなど直接的な関わりから、支援者や地域社会、行政機関の他セクションに至るまで幅広い接点があることを再確認。さらに、指定管理者制度の現状と課題、ネーミングライツとオフィシャルスポンサーの活用など、劇場・ホールの運営において直面する諸テーマについて考察しました。

ゼミ4「音楽ホール×オーケストラ、地域に何ができるだろう？」

講師：上野 喜浩

日本に25団体あるプロオーケストラ、なかでも群馬交響楽団は地方オケの草分け的存在で、1945年の創設当初から県内各所を巡る「移動音楽教室」に取り組み、現在は高崎芸術劇場をフランチャイズホールに地域と密着した活動を継続しています。音楽主幹を務める上野さんから、そもそもオーケストラはどのような構造で、音楽監督や常任指揮者、コンマス、事務局はどのような役割を担っているのか、定期演奏会などでの楽曲の選定から遡って楽団員のスケジュールはいつ決まるのかなど、オケの実態を深掘りしてもらいました。さらに、群響が取り組む支援者や地域との関係づくりについて、さまざまな工夫を紹介。寄附や協賛などの支援獲得に向けた呼びかけ、楽団員一人ひとりの声を届けるPVを制作する一方で、NHK 群馬の番組テーマ曲の演奏を担うなど、地域に大きな存在感を示しているオケの活動について伺いました。



第3日 7月6日(木)

ゼミ5「演劇をつくる、制作の仕事って？」

講師：本郷 麻衣

現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する木ノ下歌舞伎は、主宰の木ノ下裕一さんが指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を手掛けています。ところで、そもそも古典から現代の演劇までつながっていますか？との問いから、まずは歌舞伎、新派、新劇から小劇場演劇ブーム、ミュージカルの浸透、プロデュース公演への流れを押さえ、現在の演劇表現の多様化や国際演劇祭の役割などを概観しました。



木ノ下歌舞伎の制作を担う本郷さんは、その独自性を踏まえつつ、代表作「勸進帳」を例に、木ノ下さんが演出家とどのように作品をつくるか、稽古から公演にいたるプロセス、各地でツアーを行う際の公共ホールとの関係性や具体的な制作業務について紹介しました。演劇団体が自ら公演を行うことに始まり、一つの作品が公演を重ねて育ち、全国でツアーを組むようになるまでの経緯がわかるとともに、カンパニーとホールが協働する意義を考える機会となりました。

ゼミ6「ダンスワークショップ：からだに尋ねてみる」

講師：白神 ももこ

全員で輪になり、指から指へ、あるいは泳ぐ動きなどで誰かに伝わっていくコミュニケーションからスタート。通常の何倍もの速度でラジオ体操をやってみたり、普段は意識しない身体の細部（足の指のつけね、わきの下、膝の裏とか）で空間を捉える／訊いてみる動きに挑んでみました。その後はペアになって片方が目を閉じ、周囲を意識しながら進む方向を相手に委ねるなど、自らの身体に気づき、空間と他者との関係をつかんでいくワークショップとなりました。最後は、A4 コピー用紙一枚がそれぞれに渡され、「今日のセンター！」をつくることに。抽象的なテーマについて紙を折ったり破ったりしながら考え、言語化し、一人ひとりの個性が反映される「センター」がつけられました。



ゼミ7「地域の物語を探る、人とかわる」

講師：白神 ももこ、本郷 麻衣、荻原 康子

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督を務める白神さんは「誰もが来られる劇場」を目指し、アトリエでの「ダンスカフェ」や、ここにしかない遊び場をつくる「こどもステーション plus」などを企画。いまある資源をリンクさせ、ダンサーならではの視点とネットワークを活かして劇場と日常を結び付けています。荻原は墨田区で取り組むアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」で、まちなかや河川空間を舞



台に、北斎と隅田川ほか地域資源にちなむ企画をアーティストや区民と展開する例を挙げました。本郷さんは木ノ下歌舞伎が2022年の瀬戸内国際芸術祭で、島々の歴史や伝承、芸能などに取材して創作した「竜宮鱗屑譚～GYOTS～」を紹介。白神さんが演出・振付、多彩な出演者と海に棲む魚たちに扮し、瀬戸内の水底に眠る過去を語るという作品で、小豆島の農村歌舞伎舞台上で上演されたものです。地域に向き合い、資源を活かす試みの可能性について語り合いました。

ゼミ8「グループディスカッション①地域とつながるプログラムを考える」

講師：荻原 康子

なるべく多くの人と意見を交わすため、ワールドカフェの手法を用いたグループディスカッション。テーマは、①こんなコミュニティプログラムをやりたい！ ②地域に伝えるための有効な手法を考える、のふたつ。4つのテーブルに5名ずつ座り、一つのテーマについて25分話すとテーブルを移って別のメンバーと同じテーマを掘り下げ、他者がどんな考えを持っていたかを共有します。①コミュニティプログラムでは、子ども向けファーストコンサート、現役世代がデートで行きたくなる出会いの場づくり、赤ちゃんの泣き声から楽曲をつくるなどのアイデアが飛び出しました。②地域に伝える手法では、市民ライターによるメディア投稿や宣伝ガール&キッズの登用、皆でチラシをつくるワークショップなど参加型の広報手段や、多くの人の目につく駅や商店街での看板掲出、町会の回覧板のほか、スーパーの買い物かごにチラシを入れる、という案も出されました。



第4日 7月7日（金）

ゼミ9「グループディスカッション②地域から愛されるホールって何？」

進行：荻原 康子

キックオフ時の3グループに戻り、それぞれ一つのホールをモデルに、よくあるフレーズ「地域から愛されるホール」について考えました。ホールのステークホルダーを思い出し（誰に愛されたいの？）、どんなプログラムで／どうアプローチするか（愛されるために何をする？）、相手の反応・ステキな出来事を集める（あなたの愛をはかるのは無理？）との観点から、いまの事業をブラッシュアップしても新たなプログラムを考えてもよし。長久手市文化の家は、住民の平均年齢が若く芸大が近くにあるので現役世代を対象に芸大生と連携する企画を考案。四日市市三浜文化会館は毎月のロビーコンサートを昼と仕事帰りの時間帯にし、昼は椅子を外して高齢者と親子連れ向けに実施。富山県民会館ではイベントで人を集めるだけでなく滞在時間を延ばし、偶然の出会いを増やしたいとのこと。ゼミでの気づきや仲間と意見を交わす中から、さまざまなプランが生まれました。



(2) 自主事業コース

①総評

コーディネーター 仕田 佳経

全国からお集まりいただいた15名の参加者の皆様、4日間本当にお疲れ様でした。講師をお務めいただいたアーティストの皆さま、サポートいただきました札幌市民交流プラザの皆様にご挨拶申し上げます。

本コースでは、事業担当者として事業を企画・制作する中で、その事業をやることの意義を考える4日間をすることを目指しました。その中には、業務を遂行する中で必要であろう「対話」、「ディスカッション」、「コミュニティ構築」、「協働」、などの要素を取り入れることで、ある程度経験のある方、まだ担当者として経験の浅い方、これから事業を担当したいという方など様々な立場の15名が、その経験差を全く感じさせないくらい活発な交流を生み出せればと考えました。

4日間携わっていただいた桜井さんとは、ワークショップの内容を検討する際に、専門的知識がなくても大丈夫なこと、自分を知ること、相手を知ること、地域を知ること、楽曲を知ること、想像し創造することなどを実感していただく時間を作りたいと相談して進めました。というのも、初日や2日目のワークショップでの経験が3日目のプログラム作りを検討する材料となるよう、考え方や手法をちりばめたからです。事業担当者としてだけでなく、時には表現者に、時には聴衆にと、様々な立場を経験いただくことも狙いでしたが、それぞれの立場を超えた「想像」や「創造」を共有することの難しさも含めて、異なる価値観を持つ他者を認めることも体感できたのではないかと思います。

アウトリーチプログラムを作るグループワークでは、ピアノトリオの1曲を取り上げて、耳なじみがないであろう曲でアウトリーチプログラムを作るという課題に対して、生みの苦しみを味わうことになりました。プログラム作りはアーティストの力に頼らざるを得ないことも事実ですが、そのクリエイションの場に事業担当者として関わる時に、自分に何ができるかと考えてしまうと、専門的知識がないからできないとなってしまいますが、自分に何ができるかではなく、何がしたいかがないとそれに答えるアーティストも動きません。この4日間で3回はアウトリーチプログラムを検討していただいたこととなりますが、環境や対象が変わればおのずとプログラムも変えて対応せざるを得ないですし、その変化や修正の過程を経験できたことも大きいのではないのでしょうか。

初日と最終日に「なぜ公共ホールでクラシック音楽事業をやるのか」と投げかけました。この問いに対してはそれぞれの想いや意図があってよいと思いますが、この4日間の経験が何かしら皆さんの考えの助けになったり、深く考えるきっかけになっていれば嬉しく思います。この問いかけから派生して、今後ご自身が担当する事業について言葉でどう説明していくのか、その事業を実施する「柱」を述べられることを意識していただきたいと思います。今後個人で向き合い、チームや組織で向き合い、アーティストと共に地域に向き合いながら事業を実施していく際に、なぜやるのか、何のため、だれに向けて、どうなってもらいたいかなど、軸がぶれないよう「柱」を持っておくことがとても大切です。アウトリーチは地域やコミュニティに出かけていきますが、必ずしも望まれた場所でやるとは限りません。地域との間に立って難しい立場で事業を進めなければならないこともあるでしょう。忙しい毎日の中で考えることが後回しになりがちですが、今回の15人の仲間との縁を大切に、情報交換を絶やさず地域に向き合っていたいただきたいと思います。

②ゼミ記録

第1日 7月4日(火)

ゼミ1「お互いを知る」

講師：仕田 佳経、桜井 しおり

二人一組でお互い取材しあい、その後聞き取った内容を全員の前で紹介する他己紹介を実施しました。必ず聞くこととした質問事項は①名前(下の名前の由来)②会館名、主担当③これぞ地域の誇り④1番幸せを感じる⑤好きな曲(ジャンル問わず)。②③は地域性を感じていただくことを目的とし、①④⑤はパーソナルな部分を掘り下げたり、親しみを抱いてもらう効果を狙ったもの。特に⑤好きな曲を紹介する際には実際にその曲を流すことで、参加者の個性がより感じられました。その後アイスブレイクを兼ねた音楽ワークショップではコミュニケーションの活性化やチームビルディングを図りました。



ゼミ2「クラシック音楽を活用した事業」

講師：仕田 佳経

コーディネーターが携わった公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)や(一財)町田市文化・国際交流財団で経験した事業について、どのような対象に、どのような目的をもって事業に取り組んできたかを紹介し、地域によってやること、やれることも様々であり、地域について知り、課題の抽出が事業を企画することにつながることを伝えました。アーティストがその分野の専門家であるように、事業担当者は「地域の専門家」であってほしいと地域に向き合うことを求めるとともに、なぜ公共ホールがクラシック音楽事業に取り組むのかを問い、4日間で考えてもらうきっかけとしました。



第2日 7月5日(水)

ゼミ3「音楽ワークショップ体験」

講師：桜井 しおり

リズムに合わせて動きを真似たり、ゲーム性を持たせたワークで楽しんだ後、絵画を使ったワークを実施し、とある1曲を聴いて3枚の絵からどの絵にインスピレーションを受けたかを発表し、3グループに分かれて感想を述べ合いました。その後、各グループごとにその曲に合わせて表現する側に回ってもらい、その表現方法は演劇でもダンスでも楽器を使っても良いことにし、実際に表現者になる過程を体験してもらいました。感じ取るイメージも、それを表現する方法もそれぞれで良いことを体感していただけたのではないのでしょうか。音楽を聴くこと、想像すること、共に表現(創造)することに意識を移行する重要な場面でした。



ゼミ4「アウトリーチプログラムの素材①②③」

講師：①②石上 真由子、加藤 文枝、酒井 有彩 ③仕田 佳経、桜井 しおり

アウトリーチで担当者として把握しておくべき重要なこととして、どういう演奏家と、どんな曲で、どのコミュニティに届けるのか、の3点を深めました。

① 演奏家の演奏を聴く

石上真由子さん、加藤文枝さん、酒井有彩さんそれぞれがあいさつ代わりにソロ曲を演奏。その後、課題としていたブラームスのピアノ三重奏曲第3番を聴いてもらいました。事前課題で聴いてもらった音源とは違った良さ、楽器の音色や迫力、息遣いなど、その魅力を伝える圧倒的なパフォーマンスで、生演奏だからこそ伝えられることを実感できる時間になりました。



②演奏家を知る

共同会見という形でインタビューをし、人となりを知ること、どのような方を自分の地域に招き、アウトリーチやコンサートで演奏してもらおうのか紹介できるよう意識することを求めました。

③アウトリーチ先の検討

なぜ、何のために、地域の人たちに届けるのかを考える時間。翌日に発表する具体的な場所を決定するため、まずは個人で考えた後、3人×5グループでプレゼンし合い、1か所に絞るために意見を交わしました。最終的にホールに足を運ぶ機会のないブラジル人学校（中学生）に決定。言葉の問題もありますし、ハードルの高さを覚える行き先になりました。さあどうしましょうか…？



第3日 7月6日（木）

ゼミ5「実際に作る（グループワーク）①②③」

講師：①仕田 佳経、桜井 しおり ②③石上 真由子、加藤 文枝、酒井 有彩

いよいよアウトリーチプログラムを作ります。課題としていたブラームスのピアノ三重奏曲第3番を題材とすること、ブラジル人学校の中学生に届けること、双方向性（コミュニケーション）を取り入れること、アウトリーチを実施した後、ホール公演があることを想定しました。

①まずは参加者のみで5人×3グループで検討。ピアノ三重奏曲のどの部分を使うのか、言葉の壁をどうするのか、時間配分は適当なのか、様々な視点で構築していきました。

②各グループにアーティストが一人ずつ加わり、演奏する立場からのアドバイスやアイデアを加え、共に検討しました。3グループのプログラムから1つのプログラムにまとめていく過程は、様々なアイデアや意見の中から何を取り上げ、一連の流れにどう組み込んでいけば良いのか、取捨選択しながらより良い形にしていく経験をしました。



③これまで考えてきたことをもとにリハーサル。実際に音を出してみると、イメージ通りではなかったこと、机上では気づかなかったことなど、多くの課題が見つかります。トライ&エラーを繰り返し、内容をブラッシュアップしていき、最後の発表の時間では、自分たちが対象者役となり検討したプログラムを体験。考える側と体験する側で、抱く感覚が違うことも経験できたのではないのでしょうか。



第4日 7月7日(金)

ゼミ6「振り返りと今後に向けて」

講師：仕田 佳経

ゼミ2でも提示した「なぜクラシック音楽事業を公共ホールで取り組むのか」を改めて問うとともに、地域に戻ってどう取り組んでいくのかを発表してもらい、それぞれの発表に対してコーディネーターがコメント。クラシック音楽を別の芸術分野に置き換えたり、この4日間を経験して再認識したこと、意識が変化したことなど様々な視点での発表が印象的でした。4日間を共にした仲間の発表からも気づきがあり、共感し、自身の地域に照らし合わせて考えてみる時間になったことと思います。今後も自身が取り組む事業に対して、「なぜ」を常に問い続けてほしいと伝えました。



(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

①総評

コーディネーター 吉本 光宏

今回のステージラボ札幌 公立ホール・劇場マネージャーコースには、全国から12名の参加があった。設置団体別の内訳では、人口10万人未満の地方公共団体から4名、10～20万人から1名、政令指定都市から6名、都道府県から1名である。最初のゼミで、主に設置団体の人口規模をベースにグルーピングを行い、ラボ終了後も関係を維持できるよう、ゼミは基本的にグループ単位で受講してもらった。

また、グルーピングやゼミ6の「グループワーク」、ゼミ7の「発表と意見交換」での活用を視野に、参加者には次の事前課題の提出をお願いした。

- ・ ご自身の劇場・音楽堂の立地する地域が抱える課題の中で特に気になること
- ・ ご自身の劇場・音楽堂が直面している問題点・課題
- ・ (管理職・マネージャーとして) ご自身の劇場・音楽堂で取り組んでみたいと考えていること

参加申し込み時のアンケート調査への書き込みでも同様の内容が見られたが、そこには、参加館が抱える切実な問題や課題が列記されていた。人口減少に伴う観客の減少、高齢化・少子化に伴う観客の高齢化、自主事業の集客率の低下と採算性の低下、自主事業のマンネリ化、効果的な広報活動の困難さ、利用率の低下、運営組織の脆弱性、(中堅・若手)スタッフの不足、人材育成・研修の難しさ、職員の処遇改善(非正規雇用、有期雇用)の必要性、指定管理制度のもたらす制約(減額される指定管理料、評価、財政当局の無理解等)、(設置団体の財政状況の悪化に伴う)予算の削減・財源確保の困難さ、施設維持費の増大(光熱水費の高騰)、市長交代に伴う不安定な政治状況等々、である。

マネージャーコースでは、そうした運営現場における具体的な問題点・課題を視野に入れつつも、参加者が地域の課題と向き合うことをテーマにプログラムを設定した。まず、身体と気持ちをリセットし、一人ひとりが身体を通して「障害」を考えるダンス・ワークショップからスタート。その後、現代社会や地域の抱える課題が複雑化する中で、文化芸術の果たすべき役割や可能性が大きく広がっていること(ゼミ3)、アートならではの地域課題へのアプローチによって具体的な成果や課題の改善に結びついている例があること(ゼミ4)、それをホール・劇場の経営という視点から捉え直す必要があること(ゼミ5)などを参加者に伝え、自ら次の方策を模索してもらうこと(ゼミ6、ゼミ7)に主眼を置いた。

そのことを通して、自身の劇場やホールの存在価値を見つめ直し、地域や市民にとっての役割を再考することから、問題点や課題の解決に向けた次のステップを見出してほしいと思ったためである。事前課題でも、参加者それぞれの意識の高さや今後に向けた意欲が伝わってきたが、ゼミ7の発表内容は、2日間と限られた研修の中から、それぞれが何かの手応えをつかみ取ったのではないか、と思わせるものだった。ある参加者の発表にあった「覚悟を決める」という言葉が、それを象徴しているように感じた。

ラボ終了後のアンケートにも、「今回のラボでの学びは、自分のやる気に再び火をつけてくれるものでした」「自分の殻を破るキッカケをもらえた気がします」「どの館もたくさんの課題を抱えながら前向きに取り組まれていること、仲間がいることを実感しました」といった回答があったが、まさしく、マネージャーコースの参加者一人ひとりが、自館に戻り、困難な状況の中でも次の道筋を見出し、一歩ずつ前進してもらうことを願うばかりである。

②ゼミ記録

第1日 7月4日(火)

ゼミ1「自己紹介&グルーピング」

講師：吉本 光宏

一人1分で自己紹介した後、主に設置団体の人口規模に基づいて次の3つのグループを設定した。グループ名は各館が目指して欲しいイメージから名付けたものである。



A (人口10万人未満)：ミツバチ (小さいながらも社会性のある行動で機動力のある事業や運営を行う劇場・ホール)

B (主に政令市)：キリン (政令指定都市のホールを中心に、他よりちょっと背伸びした事業や運営を行う劇場・ホール)

C (政令市及び都道府県)：クジラ (大海原を頑健な身体で東も西もなく悠々と泳ぐように事業展開や運営を行う劇場・ホール)

ゼミ2「レクチャー&ワークショップ『身体から障害を考える』」

講師：セレノグラフィカ (隅地 茉歩・阿比留 修一)

ダンスユニットのセレノグラフィカが北九州芸術劇場で北九州市身体障害者福祉協会アートセンターと共同で構成・振付・演出を行った「レインボードロップス」を取り上げた。これは、障害のある人もない人も一緒にダンスを楽しむプロジェクトで、公演のダイジェスト映像を見ながらレクチャーを行った後、ダンスワークショップを実施した。レクチャーでは「不揃いの美しさ」「ダンスならではの障害者との向き合い方」などが語ら



れ、ワークショップでは身体ほぐしやハイタッチなどに続いて、二人ペアでの車椅子を使ったワーク (車椅子に乗ろう、押してみよう) や、一人が目を閉じて行うワーク (ペアワーク暗闇歩行) なども取り入れられた。参加者から「セレノさんのワークショップでは『なくてもできることがある』ということを学んだ」という感想が寄せられるなど、身体を動かすワークショップならではの学びにつながったのではないかと思う。

第2日 7月5日(水)

ゼミ3「劇場・ホールを取り巻く環境変化を知る」

講師：吉本 光宏

公立ホール・劇場を取り巻く社会・経済環境が大きく変化する中、参加者それぞれが文化芸術の役割を広く捉え直し、自館の目標や事業、運営のあるべき姿を再考してもらうことを狙いにしたゼミ。具体的には、新型コロナが現代社会に問いかけたことや文化施設からの応答などを国際的な視点から振り返り、人口減少や超高齢化・少子化、マイノリティへの眼差しなど、文化施設が向き合うべき社会的課題を俯瞰したうえで、昨年度の地域創造の調査研究から質的にも内容的にも進化しつつあるアウトリーチの成果や各地の実践例、文化芸術をとおして認知症や高齢社会とよりよく生きる国内外の取り組みなどを紹介。最後に昨今の文化政策の動向を概説し、地域創造の最近の調査研究から文化的コモンズの考え方やコーディネーターの役割に基づいた文化施設と地域連携のあるべき姿や方向性についての考察を参加者と共有した。



ゼミ4「文化芸術から地域の課題と向き合うために」

講師：小川 智紀

生成AIや芸術監督など文化関連の昨今話題解説からスタートし、講師の小川さんが理事長を務めるNPO法人STスポット横浜の、地域の課題と向き合う3つの事業「教育事業：横浜市芸術文化教育プラットフォーム・アーティストが学校へ」「地域事業：ヨコハマアートサイト」「福祉事業：神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」の内容や仕組み、成果や課題などについて講義をしていただいた。教育事業では、全国で活発になったアウトリーチについて取り組み内容や実施後の議論がされなくなったことへの危機感が示され、文化施設における芸術教育の必要性を訴えていく必要があること、地域事業では横浜市内で実に多様なプログラムが展開されていること、そして福祉事業では、鑑賞サポートより知的障害や精神障害者への目配りが必要だということなどが提示された。アートNPOが行政と連携しながら展開する実践的な取り組みから、参加者は多くの学びや気づきを得たのではないかと思う。



ゼミ5「地域の劇場・ホール経営の現場に学ぶ」

講師：小澤 櫻作

講師の小澤さんがこのゼミで強調したのは、劇場・ホールの「運営者」ではなく「経営者」としての戦略や具体的な取り組みの必要性だった。まず、サントミュージゼの立ち上げ期の運営管理計画や事業実施計画について解説が行われ、地域の課題との関連性を整理しながら、地域プログラムからホール公演へと連携する事業の流れなどが紹介された。次いで、公共ホールの経営戦略として、文化政策のトレンドと重ねた4つのドメインを示した後、企業戦略の考え方に則して①ミッション、②具体的な目標の設定、③課題とリスクの把握、④解決策の提示、⑤共有という5つの枠組みに基づいてサントミュージゼと北九州市立響ホール、グランツたけたの経営戦略が解説された。参考として株式会社ファーストリテイリングの企業戦略が紹介されるなど、経営という視点からのゼミは、参加者にとって新鮮だっただけでなく、自館の方向性を整理する上で多いに参考になったものと思われる。



ゼミ6「グループワーク：自身の劇場・ホールと向き合う」

講師：小川 智紀、小澤 櫻作、吉本 光宏

ゼミ1からゼミ5までの受講を踏まえ、参加者それぞれの館の現場や課題と照らし合わせながら、ゼミ7での課題発表に向けて、3つのグループごとに意見交換や考察を行ってもらった。ゼミ3の冒頭で示した課題は次の二つで、翌日のゼミ7の始まる30分前までに、メールで提出してもらうことにした。口頭での発表だけでなく、言語化することが重要だと考えたためである。



1. ご自身の劇場、ホールの現状や課題、ゼミの内容を踏まえマネージャーとしての今後の中長期ビジョン、取り組みたい運営や事業
2. それを実現するための最初のステップ（ラボから戻った翌日もしくは1週間以内に行うこと）

第3日 7月6日(木)

ゼミ7「発表と意見交換」

講師：吉本 光宏

「札幌宣言！」と題して、グループごとに一人ずつ課題を発表してもらった。1日半（ゼミは実質1日）という短期間の研修だったが、参加者それぞれから「17年前の劇場オープンと法人設立時の熱量に引き上げる」「給与や退職金など処遇の改善」「この地に生きる市民の暮らしになくてはならない施設」「ホールの実業を見える化して丁寧に説明する」「団体の強みを活かし、成果を市民に届ける」「運営者から経営者という言葉が腑に落ちた」「今あるもののメリットを最大限活かす」「芸術文化への市政への貢献度、必要性を納得させる」「財団を持続可能な組織にしていく」「市からの事業予算が必要であることを説明し続ける」「電卓を叩いて自身の事業費から予算を捻出する」「周りを変えるには自分が変わること」など思いや決意の込められた発表を聞くことができた。



III ステージラボ 札幌セッション

4 共通プログラム

Creative Art Mix 特別企画 コンテンポラリーダンスワークショップ

(1) 日時・会場

令和5年7月5日(水) 17:30 ~ 19:30 札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

(2) 講師・出演

高橋 秀典 (札幌市民交流プラザ 劇場事業課長・チーフプロデューサー)

鈴木 明倫 (ダンサー)

金澤 緋彩、小野 健悟、鳴海 賢治、長谷川 加奈、林 佳一郎、青木 務、酒井 颯太、

岡本 育美、DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST (バンドメンバー)

(3) 概要及び目的

札幌文化芸術劇場 hitaru では次世代創造型劇場を目指し、地元人材を活用した北海道発の公演を制作しています。特に令和元年度から開始した Creative Opera Mix 及びその後継事業の Creative Art Mix は、音楽、ダンス、映像などを融合させた取組として現在まで継続して実施しています。共通プログラムでは、受講生の皆様に Creative Art Mix の出演者によるコンテンポラリーダンスワークショップを体験していただきました。

(4) 内容

はじめに、高橋チーフプロデューサーより、札幌市民交流プラザの概要及び札幌文化芸術劇場 hitaru の事業紹介を行いました。続いて、Creative Art Mix 事業のバンドメンバーが登場し、「白鳥の湖~Creative Art Mix~」とホルストの組曲「惑星」より「木星」の2曲を演奏しました。「木星」では、講師の鈴木明倫氏によるダンスパフォーマンスも加わり、「木星」の豊かなサウンドにあわせて振り付けられた繊細かつダイナミックなダンスを鑑賞しました。

今回のワークショップは、「木星」の演奏にあわせてコンテンポラリーダンスを踊ることが目標ですが、まずは、緊張感や「ダンスする」ことに対する抵抗感を和らげるために、ティッシュを使ったワーク、形態模写、「急に床がツルツルになった！」などのお題などが与えられ、それぞれの受講生が状況に応じて思い思いの表現をしていました。

緊張もほぐれたところで、事前に用意された音源にあわせて振付を練習。振付は、これまで行ったティッシュや形態模写ワークがベースとなっていたこともあり短時間で覚えられるように工夫もされていました。

最後には、3つのグループに分かれた受講生たちがそれぞれバンドメンバーの生演奏に合わせて成果発表を行いました。短い練習時間でしたが、どのグループもメンバーが一体となったパフォーマンスを披露していました。

ステージラボはコースごとの受講が中心のため、なかなか他のコースとの交流が少ない部分がありますが、共通プログラムをきっかけに受講生全体の関係性が深まったのではないかと思います。この共同作業が受講生にとって札幌での思い出の一つとなれば担当館としては幸いです。

【共通プログラムの様子を記録したダイジェスト動画はこちらから見るができます】

(YouTube 16分00秒)

<https://youtu.be/5UtDUjoGEFg>



IV ステージラボ

岡山セッション

IV ステージラボ 岡山セッション

1 コーディネーター・講師紹介

(1) ホール入門コース

●コーディネーター

多田 淳之介 (演出家、東京デスロック主宰)

[メッセージ]

日本では残念ながら芸術というと一部の人の嗜好品だと思われがちですが、世界中の多くの国で芸術は人々が生きていくために必要なものとして大切にされています。これまでもこれから人類の歴史は芸術と共にあります。芸術なんてなくても困らないと言っている場合ではありません。教育課程に芸術による表現力や想像力、自己肯定感や他者理解を培う過程がないために、芸術がなかったために、こんなにも大人も子供も困っている国はないでしょう。公共とは公的な資金で運営されていることではなく、社会全体が関わることを言います。公共ホールは芸術愛好家のためだけの場所ではなく社会全体のための場所です。芸術ですらお金や数字でしか評価されない日本で、いかに社会全体と関わる公共ホールとして活動していくか。その可能性や実践例、劇場や芸術に携わることの素晴らしさや、楽しさを共有し、ご自身の仕事への誇りや自信に変えてそれぞれの地域に帰っていただけたら嬉しいです。

[プロフィール]

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がけ、現代社会に於ける当事者性をアクチュアルに問い続ける。公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターなどを歴任し、国際・教育・地域を活動の軸に国際交流や地域や学校でのアートを活用したプログラムを数多く手掛ける。日韓合作『가모메 칼메기』にて韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。東京芸術祭共同ディレクター。女子美術大学、四国学院大学非常勤講師。シアターねこカンパニーアートディレクター。

●講師

古橋 果林 (音楽ワークショップ・リーダー／ファシリテーター、大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻助手)

植松 侑子 (舞台芸術制作、上級ハラスメント対策アドバイザー)

岩淵 貞太 (岩淵貞太 身体地図主宰、振付家、ダンサー)

加賀田 浩二 (岡山芸術創造劇場ハレノワ 事業グループ 制作・学芸チーフ)

佐藤 拓道 (たんぼぼの家アートセンターHANA 副施設長)

(2) 事業入門コース

●コーディネーター

セレノグラフィカ

隅地 茉歩（振付家、ダンサー）

阿比留 修一（ダンサー）

[メッセージ]

「頑張ってください」と励ますのをやめました。そう言われた瞬間に、身体がこわばり始めるからです。すると、思考も硬直し始めます。企画をもむとはよく言ったもので、身体も身体でなくとも、弾力こそが命。アートという手のかかるものを相手に奮闘している皆さんに、今回は思考も筋肉もほぐす手立てを身につけていただければと考えています。前半では自分の身体を動かして創作とは何かの一端を実感し、後半では現場の方の肉声に接して自分の言葉を掘り起こし、皆さんが今後事業を進める中で、最後まで自分の力になってくれるものを直感してみませんか。私たちはダンスアーティストとして、多世代の方々とその身体に出会っています。その中で、全身が笑顔になっている子どもや市民の方々に直面すると、こちらまで生命力で満たされるのを感じます。それは、事業を担当する皆さんとも共有できるはずの喜びだと信じています。膨大に去来する視覚情報やファストさに拍車のかかる時間感覚の只中にありながら、いつもどこかほぐれていて、「気の確かな」制作者がより増えることを願って。

[プロフィール]

代表の隅地茉歩（同志社大学大学院文学研究科修了）と阿比留修一（近畿大学文芸学部芸術学科演劇芸能専攻卒業）によって1997年に結成。デュエット作品の創作を基軸に方法論の確立と解体を続行し、隅地のTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005「次代を担う振付家賞」（グランプリ）受賞後は、国内外に作品発表の場を広げる。2007年、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストとなったことをきっかけとして、全国各地でのアウトリーチ活動や市民参加作品創作にも多数取り組み、各地の劇場やNPO等と協働。実演以外にも、大学での講義や冊子の刊行など、広範に身体表現芸術の普及に務めている。

●講師

津村 卓（一般財団法人地域創造 プロデューサー）

鈴木 ユキオ（振付家、ダンサー）

持明院 由子（京都市ユースサービス協会 京都若者サポートステーション 相談支援員）

鈴木 章浩（二葉むさしが丘学園 自立支援コーディネーター）

永松 玲子（レインボードロップス）

高橋 優（元 北九州芸術劇場舞台事業課）

栗林 礼也（一般財団法人地域創造 ディレクター）

IV ステージラボ 岡山セッション

2 研修プログラム

■ 2月6日（火） 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース コーディネーター 多田 淳之介 演出家、東京デスロック主宰	自主事業コース コーディネーター セレノグラフィカ 隅地 茉歩 振付家、ダンサー 阿比留 修一 ダンサー
主会場	第4練習室	第8練習室
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00	13:30～ 受付	
15:00	14:00～14:50 開講式・オリエンテーション 会場：小劇場	
16:00	15:00～17:30 ゼミ1「キックオフ」 講師：多田 淳之介 会場：岡山市内、第4練習室	15:00～17:30 ゼミ1「オープニングワークとオープニングトーク」 講師：津村 卓、セレノグラフィカ 会場：第8練習室
17:00		
18:00	休憩・移動	休憩・移動
19:00	18:00～19:30 全体交流会 会場：アートサロン	
20:00		

■ 2月7日（水） 第2日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 多田 淳之介 演出家、東京デスロック主宰	コーディネーター セレノグラフィカ 隅地 菜歩 振付家、ダンサー 阿比留 修一 ダンサー
主会場	アートサロン	小劇場
10:00		
11:00	10:00～12:00 ゼミ2 「音楽ワークショップ体験」 講師：古橋 果林	10:00～12:30 ゼミ2 「創作の現場へ～二つのダンスワークショップに触れる～」 講師：鈴木 ユキオ、セレノグラフィカ 会場：小劇場
12:00		
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00～15:00 ゼミ3 「風通しの良い創作現場のために」 講師：植松 侑子 会場：アートサロン	13:30～17:15 ゼミ3 「創作の現場体験～創作者、出演者の生の声に触れる～」 講師：鈴木 ユキオ、セレノグラフィカ 会場：第4練習室、第8練習室、小劇場
15:00	休憩	
16:00	15:15～17:15 ゼミ4 「ダンスワークショップ体験」 講師：岩淵 貞太 会場：アートサロン	
17:00	休憩・移動	休憩・移動
18:00	17:30～19:30 共通プログラム「老いと演劇のワークショップ～演劇の可能性を体験する～」 講師：菅原 直樹 会場：大劇場	
19:00		
20:00		
21:00		

■ 2月8日(木) 第3日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 多田 淳之介 演出家、東京デスロック主宰	コーディネーター セレノグラフィカ 隅地 茉歩 振付家、ダンサー 阿比留 修一 ダンサー
主会場	小劇場	アートサロン
10:00		
11:00	10:00~12:00 ゼミ5 「公共劇場のこれまでとこれからを考える」 講師：加賀田 浩二、多田 淳之介 会場：小劇場	10:00~12:30 ゼミ4 「支援の現場の生の声に触れる」 講師：持明院 由子、鈴木 章浩 会場：アートサロン
12:00		
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00~15:00 ゼミ6 「障害のある人とのアートについて考える」 講師：佐藤 拓道 会場：小劇場	13:30~15:00 ゼミ5 「プログラム参加者の生の声に触れる」 講師：永松 玲子、高橋 優 会場：アートサロン
15:00	休憩	休憩
16:00	15:15~19:30 ゼミ7 「やりたいこと、できること、 やらなくてはいけないことから事業を考える」 講師：多田 淳之介 会場：小劇場	15:15~19:30 ゼミ6 「同じ仕事に取り組んでいる仲間の声に触れる」 講師：持明院 由子、鈴木 章浩、栗林 礼也 会場：アートサロン
17:00		
18:00		
19:00		

■ 2月9日（金） 第4日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 多田 淳之介 演出家、東京デスロック主宰	コーディネーター セレノグラフィカ 隅地 茉歩 振付家、ダンサー 阿比留 修一 ダンサー
主会場	第4練習室	第8練習室
9:00		
10:00		
11:00	10:00～11:30 ゼミ8「まとめ、フィードバック」 講師：多田 淳之介 会場：第4練習室	10:00～11:30 ゼミ7「クロージングトークとクロージングワーク。 自分の生の声に触れる」 講師：津村 卓、栗林 礼也、セレノグラフィカ 会場：第8練習室
12:00	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動
13:00	12:00～13:00 修了式 会場：小劇場	
14:00	※修了式後、各コース毎に解散	※修了式後、各コース毎に解散
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		

IV ステージラボ 岡山セッション

3 各コースについて

(1) ホール入門コース

①総評

コーディネーター 多田 淳之介

ホール入門コースということで、ベーシックなインプットとアウトプットのトライ、そして他の地域で働く同志たちとのコミュニケーションを目指してプログラムを組みました。一言でホール勤務1年半未満といっても、参加者の顔ぶれを見ると新卒で初めてのホール勤務の方から他部署から移動してきた方、他ホールでの勤務経験がある方など、地域も違えば担当部署も経験もバラバラでした。ただこれからの時代のホール運営に携わる方であることは間違いないので、これからの時代作りという点も意識しました。

ワークショップ体験については、訓練して達成を目指し評価を受けることが目的ではないということの理解から始めました。音楽のアウトリーチといえば出張コンサートになりがちですが、古橋果林さんをお願いした音楽のワークショップでの声や音で繋がる体験は、音楽は誰もが楽しめるという当たり前のことを私自身も改めて実感することができました。コンテンポラリーダンスのワークショップは、普段と違った方法で身体を動かすと楽しい、というところからひとつハードルを上げるつもりで岩淵貞太さんをお願いしました。何よりも岩淵さんのダンス観に触れてもらうこと、アーティストの発想を体験してもらうことを目指しました。ファシリテーターは往々にして自分の存在を消し参加者を主役にする役割を担いますが、例えば市民参加の作品作りではアーティストとして市民と共同しながらそのアーティストの世界観をどう立ち上げるかが求められます。制作者としてアーティストに何を求めるかということを考えるきっかけになってくれたら嬉しいです。

今回絶対に外せないと思っていたプログラムの一つは植松侑子さんをお願いしたハラスメント防止についての講座でした。もちろん管理職や特権を持つ人たちの意識改革をまずしなくてはいけません。若い人たち、立場の弱い人たちが自分たちを守る為に知っておいてもらいたいことも多くあります。ようやく作品のクリエイション現場でもワークショップや市民参加の現場でも、ハラスメント防止の講習、ガイドラインがあるのが当たり前の時代になってきました。参加者の方々には悪しき慣習を撤廃して人々が生き生き活動できる風通しの良い現場作りを目指していただきたいと切に願います。そしてもう一つ外せなかったのが佐藤拓道さんをお願いした障害のある方との事例紹介です。ホール入門編としては考えがまだそこまで及ばないという方もいたかもしれませんが、そうも言うてはいられません。今やソーシャルインクルージョンはホールに必須の考え方になりました。社会全体に開いているのが公共施設の使命です。そしてそれは一つのホールだけで賄うのは難しく、地域の福祉施設や専門施設と連携し、舞台芸術の知恵や技術を活用してもらうことで実現できることも多くあると思います。

昨今は地域の中で文化施設に求められる機能も増えていて、いまだに貸し館だけのハコモノもあれば、少ない予算でも地域活性に取り組んでいるホールも増えています。要は差がついているということですが、他者理解やコミュニケーション能力、クリエイティブな思考をいかに育むか、地域コミュニティの形成や地域の魅力発信にどう取り組むか、つまりその地域の生き残りをホールが担いうる時代にもなってきています。参加者の方たちにプレッシャーをかけたいわけではありませんが、地域のために、社会のために貢献できる職にあるということはぜひ喜びに感じてもらいたいです。もちろん大変なことも多い職場ですが、そんな時は今回できた仲間たちが励まし、慰め、力になってくれるでしょう。仲間がいるということは何よりも大切なことです。そして事業を考える時にもぜひ自分自身の興味やモチベーションを大切にしてください。プログラムの中でも話しました

が、地域も大切ですがまずは自分自身を大切にすることを忘れずに、「自分（I）」のためだけでなく「誰か（THEY）」のためだけでなく「私たち（WE）」のために誇りある仕事をしてもらえたらと願っています。

(1) ホール入門コース

②ゼミ記録

第1日 2月6日(火)

ゼミ1「キックオフ」

講師：多田 淳之介

初日は開講式、施設見学を経て、ハレノワの職員の宮嶋泰明さんのガイドで劇場周辺の街歩きをしました。なぜこの場所に劇場があるのか、この場所から何ができるのかを内側の目と外側の目から考える時間になりました。劇場に戻ってからは自己紹介と演劇を使ったコミュニケーションワークショップを体験しました。自己紹介では現在の職場の紹介とラボに参加した動機も話してもらいました。自ら志願してきたという方や、職場の先輩から勧められてきた、



何をするかは全く知らされずにとりあえず来ることになったとさまざまで、4日間への期待と不安を共有しました。ワークショップを受講するのが初めてという参加者もいましたが、「訓練、達成、評価」を目指すのではなく失敗も楽しめる場としてのゲームから始まり、非言語コミュニケーションのワークまで楽しみながら積極的に取り組み、参加者同士の距離感も縮まりました。

第2日 2月7日(水)

ゼミ2「音楽ワークショップ体験」

講師：古橋 果林

ゼミ2では公共ホールや教育機関、福祉施設などさまざまな現場でワークショップの実践やレクチャーなどをされている古橋果林さんによる音楽ワークショップを体験しました。音楽ワークショップとはどういうものかというお話から、いろんな楽器を使ったワークでは、子供に戻ったような真剣な表情で楽器を選び、トーンチャイムのワークで生まれていく音の世界にもまた子供のように純粋に感動している参加者たちの姿が印象的で、大人と子供の境なく人間にとっての音楽、芸術の力を感じました。グループに分かれての絵や擬音を使った楽譜作りからお互いに楽譜を交換して演奏するワークでも、お互いの違いからさまざまな発見をしていく体験で、良い演奏、正しい演奏を目指す音楽教室ではなく、すべての人に開いた音楽ワークショップを体験できました。



ゼミ3「風通しの良い創作現場のために」

講師：植松 侑子

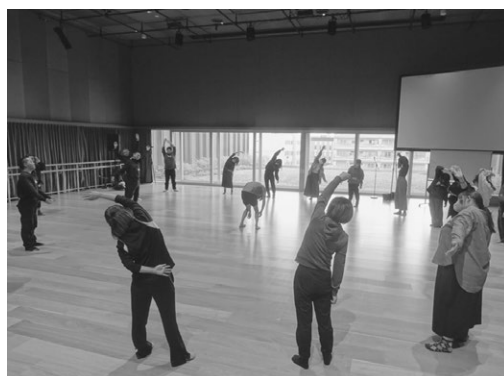
ゼミ3では、舞台芸術の制作者でもあり上級ハラスメント対策アドバイザーの資格を持ち芸術文化領域においてハラスメント防止研修や様々な現場のガイドライン作成等に取り組まれている植松侑子さんによるレクチャーを受講しました。参加者間でもハラスメント防止の講習を受けた経験の違いもあり、ベーシックなハラスメント類型のお話から舞台芸術の現場に特化したお話まで、参加者間のディスカッションも挟みながら有意義な時間となりました。ハラスメント研修は管理職対象になりがちで、舞台芸術の現場の特殊性に対応しきれない内容であることも多い現状で、入門コースの参加者の方たちが職場外で舞台芸術の現場に特化した研修を受けてもらうことにはとても意味があると改めて感じました。こういった現場が増えていくことを願っています。



ゼミ4「ダンスワークショップ体験」

講師：岩淵 貞太

ゼミ4では、振付家・ダンサーの岩淵貞太さんによるダンスワークショップを体験しました。岩淵さんによる身体へのアプローチは、身体を網のように伸縮していくワーク、指によって身体の動きを導いていくワークなど、ほぼすべての参加者にとって初めての経験だったと思います。戸惑いを見せる参加者にも岩淵さんがそれぞれに丁寧なコミュニケーションをとってくれて、参加者の「わからない」も受け入れながら参加者それぞれの取り組みを見守ってくれていたのが印象的でした。自分の身体について普段とは全く違うアプローチをしてみることでさまざまな発見ができる時間となり、最終的には訓練されたダンサーではなく普通の人々の身体の多様性、可能性が溢れ出るパフォーマンスを見せてくれました。



第3日 2月8日(木)

ゼミ5「公共劇場のこれまでとこれからを考える」

講師：加賀田 浩二、多田 淳之介

ゼミ5では、元・北九州芸術劇場の職員であり、現・岡山芸術創造劇場ハレノワ事業グループチーフの加賀田浩二さんから北九州での取り組み、ハレノワでの取り組みについてのお話、多田より以前芸術監督を務めていた富士見市民文化会館キラリ☆ふじみでの取り組みについてお話ししました。加賀田さんからはその地域の特徴を踏まえて劇場がアーティストと共に取り組んできた事業の紹介、そしてハレノワの地域の人たちを巻き込んだオープニング事業までの取り組みなど、担当者がどういった発想で事業を立ち上げていくのか貴重お話を伺いました。多田からは地域や市民に開いた劇場の事業、市民が主体となった取り組みについてお話ししました。単なる買い公演ではない公共劇場の自主事業が持つさまざまな可能性について思いを巡らす時間となりました。



ゼミ6「障害のある人とのアートについて考える」

講師：佐藤 拓道

ゼミ6では、ご自身も足に障害を持った俳優として活動をし、社会福祉法人わたぼうしの会が運営する「たんぽぽの家アートセンターHANA」の副施設長として“すべての人がアートを通じて自由に自分を表現する”という施設のコンセプトのもと障害のある方との演劇プログラムの運営や演出をされている佐藤拓道さんから、施設について、演劇プログラムについて紹介していただきました。参加者によっては福祉との事業を経験している人やまったく触れたことのない方もいましたが、参加者それぞれの経験に基づいて芸術がどう福祉の現場で活躍できるのか、ベーシックな部分から今後の可能性まで、多くの発見のできる時間でした。特に佐藤さんのアーティストとして、福祉施設職員として、障害当事者として、それぞれの当事者視点からの思いを聞いたことは貴重でした。



ゼミ7「やりたいこと、できること、やらなくてはいけないことから事業を考える」

講師：多田 淳之介

ゼミ7では、これまでのゼミを経て、自分の地域での事業をプランしてみるワークを行いました。まず初めに、日本と諸外国の文化予算の推移の比較、2001年に策定された文化振興基本法や2010年の劇場・音楽堂の活性化に関する法律についてなどの固い話から、ホールが単に公金を使った公立施設ではなく社会全体に開いた公共性をどう持つかなど、公共劇場を取り巻く現状から事業を考える上での基本的

となる考え方のレクチャーから始めました。そのあと参加者が二人組のペアとなりお互いの話を聞き取る方式で自分のやりたいこと（WANT）、地域に必要なこと（NEED）、ホールのできること（CAN）を組む相手を変えながら考えていきました。自分の思い【I WANT】だけでも、地域のニーズ【THEY NEED】だけではなくて、その双方があって【WE CAN】が生まれるという考え方のもとユニークな事業の数々が発表されました。実際の職場での事業にもこの日の自由な発想が生かされることを期待します。



第4日 2月9日（金）

ゼミ8「まとめ、フィードバック」

講師：多田 淳之介

ゼミ8では、前日までのプログラムでアウトリーチについての質問などもあったので、演出家の内藤裕敬が行っている絵と音楽を使ったワークなど、今回のラボで体験したもの以外のアウトリーチプログラムの紹介をしました。その後は参加者一人ずつ振り返りを話してもらい共有しました。他の地域の話や思いを聞いたことが大きな収穫だったという声が多く聞かれました。これまで音楽のコンサートなど一流のもの以外は受け入れられなかったがその考え方が変わったというコメントが印象的でした。全員でメッセージツールのグループを作るなど新しい仲間との良き交流が生まれていました。



(2) 自主事業コース

①総評

コーディネーター セレノグラフィカ

居心地が良くなければ、そこはその人の居場所になりません。そして、居場所とは、誰かが奪ったり押し付けたりできるものでもありません。これは、ここ数年ワークショップやアウトリーチの現場に出向いて感じ続けていることです。「現場」。つくづく尊い言葉だと思います。近年は、中でも、支援を必要としている場所に赴く機会が増えました。そこでは、身体的な障害をお持ちの方含め、何らかのハンデを抱えた方々がアートに手を差し伸べて欲しいと待っておられます。では、そういう方たちとどうやってコミュニケーションを取っていくのか。言語に頼れない場合もあります。むしろ頼りになるのは身体を読むということで、その方の身体が漂わせている空気感や視線の泳ぎ方、発語の前に現れる身振りなど、あらゆる信号がキャッチの対象です。無言のうちに発散されるサインは、それほどに雄弁です。

今回の自主事業コースでお迎えした講師の方々は、職種は多様でも、人の身体から発せられるメッセージへの敏感さが求められる現場の方々です。まずは振付家でダンサーの鈴木ユキオさん。受講者の皆さんに、アーティストの創作現場に出演メンバーとして入り込み、実際に本番を体験して、市民参加事業の出演者の感じる緊張感や充実感を生で体感して欲しいという願いがありました。ユキオさんとセレノの2チームに分かれて作業したことで、出演者と観客の双方を味わい、本番直後の輝いた表情や張りのある声からは、自らの身体で掴み取った自信がみなぎっていました。これが「創作の現場」。

続いて「支援の現場」。お迎えしたのは、児童養護施設の自立支援コーディネーターである鈴木章浩さんと、若者サポートステーションの相談支援員の持明院由子さん。このお二人の声には、アートがいかに関心を持って支援の現場で勇気となり、発見に成り得ているのかについての具体的かつ繊細な提言がありました。続いて、ご自身が障害者で、舞台経験も豊富な永松玲子さんにもぜひ生で触れてもらいたかったところですが、急なご体調不良で叶わず、急遽、高橋優さんが、永松さんご出演の公演事業の企画立案者であったことを生かして制作エピソードを披露して下さるという貴重な時間ももたらされました。今後各地で、アートに手を差し伸べて欲しいという潜在的な要望に直面する機会が増していくことが予想されます。それにどうやって応えていくのか。3日目のグループワークでは、自分を一步でも進ませてもらえる発案の掘り起こしに努め、実現性を横目で睨みながらも、活きのいい言葉や弾力あるアイデアに恵まれました。こわばった身体にはこわばった思考しか宿らないを合言葉に、煮詰まり注意報発令を予感すればボディーワークで緩めつつ、時折起こる笑い声や視界に飛び込んで来る笑顔で、自主事業コースの現場が縁取られました。

以上の濃密な中身を包括するオープニングとエンディングには、それぞれ、地域創造プロデューサーの津村卓さんとディレクターの栗林礼也さんをお迎えし、公共ホールが市民参加事業や福祉の分野との協働に取り組む意義や、一見ハードル高く感じられる要素が最終的に事業成果に結びついた事例を示して頂いたことは、受講生の皆さんが今後取り組んでみたい事業を具体的に思い描く上での刺激となりました。初日の船出から最終日の寄港まで、4日間の全行程を終えて、「気持ちは雑念がなければ通い合い、目と目は素直ならば見交わすことができ、身体と一緒に動かすことで言葉にならない何かをささやかでも共感できる」という、当たり前のはずが置き去りにしてしまいがちなことを共有できた気がして、救われた感覚を抱いています。

受講生の皆さんの本拠地である町。町という生命体の切り離せない一部であり、町のDNAをあ

るところでは証し立てていると言っても過言ではない場所に勤務し、その表情を作っていく日々であらうと思います。誰かの傍らに寄り添い、一緒に喜び、泣き、笑う事業担当者でいて欲しいと願わずにはられません。皆さんのホールに集うたくさんの人たちを乗せた航海の旅は、まさにこれから始まろうとしています。

最後に、細やかな準備も含めて、開催期間中温かくサポートして下さった方々に心から感謝申し上げます。

②ゼミ記録

第1日 2月6日(火)

ゼミ1「オープニングワークとオープニングトーク」

講師：津村 卓、セレノグラフィカ（隅地 茉歩、阿比留 修一）

オープニングは、身体を動かすコミュニケーションワーク。身体や心の無邪気さを取り戻し、参加者同士の距離を縮める50分。場が和んだ後、円座になって、コーディネーターの殆ど未公開の自己紹介、今回の自主事業コースのプログラムの組み立ての上で大切にしたこと、各ゼミのトピックの流れになどについてコメント。鎖骨や肋骨をさするブレイクを挟み、活発な意見交換のきっかけづくりとして、ペアで二点話し合ってもらった。「私の町で一番元気な場所や人」と「私の町でもっと元気になったらいいなと思う場所や人」。



続いて、「なぜ近年市民参加公演が増えているのか、またなぜ福祉との協働・支援の事業が増えてきたのかに関連する短い映像を鑑賞。講師の津村卓さんを交えて、公共ホールが上記の2例に取り組む背景や理由について考え、公共ホールにおける、公共とは何か、に迫る端緒とした。*津村さんの登場曲：ルイ・アームストロング「この素晴らしき世界」

第2日 2月7日(水)

ゼミ2「創作の現場へ～二つのダンスワークショップに触れる」

講師：鈴木 ユキオ、セレノグラフィカ

二組のアーティストそれぞれのWS体験。前半は鈴木ユキオさんによる60分。冒頭はご本人と安次嶺菜諸さんのダンス。丁寧なウォーミングアップに始まり、ペアになって動かす身体と動かされる身体を体験、意図せぬ身体の動きを作ることが狙い。自分の身体に反応して遊んでいくことが主眼であるという、ユキオさんの哲学が隅々まで行きわたるワークだった。休憩を挟んで後半はセレノによる60分。輪になって、お題に答えつつバンザイするメンバー確認を



を経て、身体の部位を順にタッチしながらリズムを刻む<身体の火入れ>に進み、空間を広げて、様々なリクエストに動きで答えてもらう。その後、セレノのダンスナンバー「ウェーブダンス」を一曲踊り切った。大切にしていることは共通でありつつ手法の異なる二つのWS体験は有意義だったと思う。最後に、くじ引きでユキオとセレノの2チームに分かれて解散。*ユキオさんの登場曲：ジョニー・デップ「Minor Swing」

ゼミ3「創作の現場体験～創作者・出演者の生の声に触れる～」

講師：鈴木 ユキオ、セレノグラフィカ

ユキオチーム9人とセレノチーム10人に分かれ、別会場にて短いダンス作品の創作を2時間で体験。その後場所を小劇場に移し、両作品についてのテクニカル打ち合わせを行い、16時からはセレノ作品「君の名を何度も」、次いで鈴木ユキオ作品の順でショーイング、終了後、実際に踊ってみた感想と相手チームの作品を鑑賞した感想を共有した。ユキオさんとは事前に使用楽曲を検討しておき、当日3曲ずつ持ち寄った中から、くじ引きで共通の2曲を決定した。振付や構成演出



の手法の違いを明確にするため、このリクエストを快諾して下さったユキオさんに深謝している。また短時間でクリエーションから最終上演まで運べたのも、ハレノワのテクニカルスタッフの柔軟かつスピーディーな対応があったからで、それらを肌で感じたことも受講者の充実に繋がったのではないだろうか。実際に出演者になるというレアな機会を経たメンバーの表情は、終演後の出演者の高揚感そのものだった。

第3日 2月8日(木)

ゼミ4「支援の現場の生の声に触れる」

講師：持明院 由子、鈴木 章浩

鈴木彰浩さんは、日本の児童養護施設の歴史の変遷や施設を巡る現状などについて、豊富な資料を用いてお話し下さった。施設でのアーティストWSについて「ありのままの自分や相手を認めるという、主体性の保証と他者との共感が盛り込まれた、児童養護施設で育った子どもたちが社会で生きていくためのすべてが入っているもの。」と鈴木さん。持明院由子さんは、京都若者サポートステーションで、発達障害などの原因により働くことへの困りごとを持つ19~49歳の方の就労支援に従事されている。ダンスWSについて「評価が下されない場で誰かと何かをすることは安心につながり、自分が誰かを受け入れ、自分も誰かに受け入れられることでコミュニケーションに前向きになれる。」と持明院さん。受講者からは、「NPO法人から初めてWS開催のアプローチを受けた時の印象は?」「不安を抱えている方たちにどのようにWS参加を奨めるべきか」など、自身が担当することを想定した質問も寄せられた。*鈴木さんの登場曲：竹原ピストル「ON THE ROAD」/持明院さんの登場曲：栗コーダーカルテット「亡き王女のためのパヴァーヌ」



ゼミ5「プログラム参加者の生の声に触れる」

講師：高橋 優、永松 玲子

レインボードロップス事業のWS参加者かつ公演の出演者であり、障害と向き合いながら舞台活動を続けておられる永松玲子（レンコン）さんのお話しを聞く予定であったが、体調不良のため来場できず、冒頭にその経緯を説明した。そこで北九州芸術劇場で7年間この事業の担当者であった高橋優さんを急遽お招きしてご紹介、第一回公演のメイキング映像を見ながら、事業を進めていく上でのエピソードなどを細やかに披露して頂いた。第二回公演での永松玲子さんのソロダンスのパートも映像にて鑑賞、鑑賞した後の感想や受講者からの質問などを募った。ゼミの最後にはレンコンさんとお電話にて通話、オンラインでの対面は叶わなかったが、受講者と声のみでの会話を短く交わすことができた。*高橋優さん(永松玲子さん)の登場曲：ヤン・ティールセン「L'echec」



ゼミ6「同じ仕事に取り組んでいる仲間の声に触れる」

講師：持明院 由子、鈴木 章浩、栗林 礼也

ゼミ4、5を踏まえ、これからの事業にどう生かしていけるのかを掘り下げていった。くじ引きで4グループに分かれチーム名も決めた。現時点で率直に高揚感を抱いていること、一方で心配に感じることをそれぞれ「わくわくシート」「もじもじシート」に記入し、わくわくゾーン、もじもじゾーンに配置。それらを巡回してピックアップした印象深いワードを発表し、鈴木さんと持明院さんに、現場者としてのコメントを頂く。アートに手を差し伸べて欲しいという現場の声に応えるべく、アイデアの一端や事業タイトル、コンセプトの一部などを、実現性の多寡に縛られずに掘り起こす作業に取り組んだ。脳疲労を取り除くワークを挟み、講師の栗林礼也さんをお迎えして、もじもじをわくわくに転換し得た貴重な事例を数例ご紹介頂いた。それらを受け、各チームで事業プランを案出、発表へと駒を進めた。ネガティブなことをいかにポジティブに近づけていくかが主眼のゼミとなった。*栗林さんの登場曲：映画音楽「ロッキーのテーマ」



第4日 2月9日(金)

ゼミ7「クロージングトークとクロージングワーク～自分の生の声に触れる～」

講師：津村 卓、栗林 礼也、セレノグラフィカ

この三日間に触れた様々な現場の生の声が、自分の中に何をもたらしたのかを改めて振り返り、これから自分の町と劇場に戻って、どんなことに取り組みたいと思うのか、あの話の時に心が動いて身体が熱くなった、実現の瞬間を想像して脈拍が速くなった、そういう体験にフォーカスするようリクエスト。その上で、完成図にこだわらない、できるだけ具体的なプランを、持ち時間2～3分程度で一人ずつ



披露してもらった。どの受講者も、借り物では無い自分の言葉で語っていて頼もしさに満ちていた。講師である津村さん、栗林さんからも、折に触れ反芻したくなるようなエールを頂き、コーディネーターからは「劇場に集う人たちの傍で語れる、寄り添える担当者でいて欲しい」とのメッセージを贈った。解散する直前、自主事業コースの最後は、みんなで踊った。初日との感覚の違いを実感しながら。

IV ステージラボ 岡山セッション

4 共通プログラム

老いと演劇のワークショップ～演劇の可能性を体験する～

(1) 日時・会場

令和6年2月7日(水) 17:30～19:30 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 大劇場

(2) 講師・出演

加賀田 浩二 (岡山芸術創造劇場ハレノワ 事業グループ制作・学芸チーフ)

菅原 直樹 (劇作家・演出家・俳優・介護福祉士／「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰)

(3) 概要及び目的

岡山芸術創造劇場ハレノワでは、岡山県在住の菅原直樹氏とともに、県内の高校生を対象とした「ハイスクール演劇公演」、老いや介護に関心のある方との演劇創作「老いのプレーパーク」等様々な取り組みを行っています。共通プログラムではその取り組みについてご紹介し、菅原氏による「老いと演劇のワークショップ」を体験していただきました。

(4) 内容

2023年9月にオープンした岡山芸術創造劇場ハレノワ。大劇場・中劇場・小劇場・アートサロンそして、練習室を11室備えた、創造型劇場の概要を説明し、劇場コンセプトとして「魅せる」「集う」「つくる」を掲げ、ハレノワが市民にとって心のオアシスとなるような場を目指している旨を伝えました。

菅原直樹氏の演劇活動は、劇団名「老いと演劇」OiBokkeShi に込められています。「老い」と「ボケ」と「死」というワードから、超高齢社会の課題を「演劇」というユニークな切り口でアプローチしています。その活動は、演劇、介護のジャンルを越え、近年多方面から注目を集め、劇場が目指す姿とリンクする部分が多くありました。

冒頭に、看板俳優の、認知症の妻を在宅で介護する岡田忠雄氏(現在97歳)との出会いや、OiBokkeShiの公共性の高いと感じる活動を紹介しました。参加者の中でも介護体験をしている方の多くが、菅原氏の発言に共感している様子が伺えました。

菅原氏の実体験談とともにプログラムが進行され、認知症になると、物忘れや勘違いが増え、何かをするのに時間がかかり、時に失敗をしてしまうため、介護者に求められるのは、失敗を指摘したり、言動を正したりすることではなく、その人が見ている世界に演技の力を借りて飛び込むことなどを参加者に伝えました。介護する側・される側という一方的な関係を越え、「いまここを共に楽しむ」新しい関係を創造するという演劇体験を通じて、認知症の人とのコミュニケーションを考えるワークショップでした。実際にその場で演じることで、認知症ケアの気づきやヒントを講師と参加者間で共有することができました。

今回のプログラムを通じて、新たな演劇の魅力を感じていただけたら嬉しく思います。社会福祉の専門家ではない劇場が、どのようなアプローチで、インクルーシブな事業をどう展開していけるのか。我々も模索段階ですが、各施設の方々の事業の幅が広がるヒントになれば幸いです。



V 参加者リスト

V 参加者リスト

1 ステージラボ 札幌セッション

(1) ホール入門コース

01.北海道	いとう え ゆきの 井上 薫乃	公益財団法人札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 事業課 営業係	札幌コンサートホール
			開館年 1997 年 大ホール 2008席/2,241㎡ 小ホール 453席/758㎡ 大リハーサル室 0席/292.50㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 1	〒 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		
01.北海道	こまつ みづき 小松 美月	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館 事業部 管理課 業務係	札幌市教育文化会館
			開館年 1977 年 大ホール 1100席/3008㎡ 小ホール 360席/990㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
No. 2	〒 060-0062 札幌市中央区南2条西13丁目319 南大通ビル二条館 4F TEL 011-271-5821 / FAX 011-271-1916		
01.北海道	かわむら しゅり 川村 珠里	特定非営利活動法人ハマナスアート 総務課 受付係	まなみーる岩見沢市民会館・文化センター
			開館年 1983 年 大ホール 1165席/1721,25㎡ 中ホール 514席/1076㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
No. 3	〒 068-0029 岩見沢市9条西4丁目1-1 TEL 0126-22-4233 / FAX 0126-25-9092		
04.宮城県	さなお ともみ 佐直 友美	公益財団法人仙台市市民文化事業団 青年文化センター 管理運営課 管理運営係 主事	日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）
			開館年 1990 年 コンサートホール 802席/1918㎡ シアターホール 584席/1914㎡ 交流ホール 300席/472㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
No. 4	〒 981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 TEL 022-276-2110 / FAX 022-276-2108		
04.宮城県	かたおか つばさ 片岡 翼	仙南地域広域行政事務組合 企画係 主事	仙南芸術文化センター（えずこホール）
			開館年 1996 年 大ホール 802席/192㎡ 平土間ホール 300席/210㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
No. 5	〒 989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1 TEL 0224-52-3004 / FAX 0224-51-1130		
10.群馬県	せきぐち ともひさ 関口 智久	公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団 桐生市民文化会館 文化振興担当	美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）
			開館年 1997 年 シルクホール 1517席/1946㎡ 小ホール 276席/757㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
No. 6	〒 376-0024 桐生市織姫町2番5号 TEL 0277-40-1500 / FAX 0277-46-1126		
14.神奈川県	かわばた みなみ 河端 みなみ	特定非営利活動法人チーム杉劇 事業担当	横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
			開館年 2005 年 ホール 310席/510㎡ ギャラリー 100㎡ リハーサル室（コスモス） 60席/100㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
No. 7	〒 231-0012 横浜市中区相生町3丁目61泰生ビル2階（さくらWORKS〈関内〉内） TEL 045-771-1212 / FAX 045-770-5656		
14.神奈川県	つかさこ ゆみ 塚迫 結実	公益財団法人川崎市文化財団 ミュージア川崎シンフォニーホール 経営管理課	ミュージア川崎シンフォニーホール
			開館年 2004 年 音楽ホール 1997席/260㎡ 市民交流室 150席/136.5㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
No. 8	〒 212-8557 川崎市幸区大宮町1310 TEL 044-520-0100 / FAX 044-520-0103		

16.富山県	おおば まさね 大場 眞寧	公益財団法人富山県文化振興財団 富山県民会館 ホール担当 主事	富山県民会館 開館年 1964 年 富山県民会館 ホール 1105席/1300㎡
	No. 9 〒 930-0006 富山市新総曲輪4-18 TEL 076-432-3113 / FAX 076-432-2024		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
16.富山県	かわさき なつこ 川崎 夏子	公益財団法人黒部市国際文化センター 主事	黒部市国際文化センター コラーレ 開館年 1995 年 カーターホール 886席/500㎡ マルチホール 200席/240㎡ 野外能舞台 300席/497㎡
	No. 10 〒 938-0031 黒部市三日市20 TEL 0765-57-1201 / FAX 0765-57-1207		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
20.長野県	よしむら ももこ 吉村 桃子	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事業課制作担当 主事	長野市芸術館 開館年 2016 年 メインホール 1,292席/4130㎡ リサイタルホール 293席/1170㎡ アクトスペース 230席/440㎡
	No. 11 〒 380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地 TEL 026-219-3100 / FAX 026-219-3110		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
21.岐阜県	たてばやし ふみか 館林 史佳	公益財団法人可児市文化芸術振興財団 顧客コミュニケーション室 主事	可児市文化創造センター-ala 開館年 2002 年 主劇場（宇宙のホール） 1019席/-㎡ 小劇場（虹のホール） 311席/-㎡
	No. 12 〒 509-0207 可児市下恵土 3433-139 TEL 0574-60-3311 / FAX 0574-60-3312		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	よねはら みさと 米原 美郷	長久手市 くらし文化部 生涯学習課 事業係 主事	長久手市文化の家 開館年 1998 年 森のホール 711席/2,538.1㎡ 風のホール 292席/1,455.8㎡ 光のホール 80席/125.3㎡
	No. 13 〒 480-1166 長久手市野田農201番地 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
24.三重県	もり えりか 森 恵里佳	公益財団法人四日市市文化まちづくり財団	四日市市文化会館（四日市市三浜文化会館） 開館年 2017 年（四日市市三浜文化会館） 四日市市文化会館第一ホール 1783席/162㎡ 四日市市文化会館第二ホール 593席/112.5㎡ 三浜文化会館多目的ホール 200席/579.5㎡
	No. 14 〒 510-0845 四日市市海山道町1丁目1532-1 四日市市三浜文化会館 カルチャー三浜 TEL 059-348-5380 / FAX 059-345-3809		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
27.大阪府	しんどう さやね 新藤 彩音	公益財団法人河内長野市文化振興財団 管理グループ	河内長野市立文化会館（ラプリーホール） 開館年 1992 年 大ホール 1308席/583㎡ 小ホール 464席/320㎡
	No. 15 〒 586-0016 河内長野市西代町12-46 TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
36.徳島県	くめ はるか 久米 春花	公益財団法人徳島県文化振興財団 事業課 主事	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館） 開館年 1971 年 ホール 809席/-㎡ 小ホール 0席/288㎡ 大会議室 0席/533㎡
	No. 16 〒 770-0835 徳島市藍場町2-14 TEL 088-622-8121 / FAX 088-622-8123		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

40.福岡県	まつもと ともこ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 劇場事業課	北九州芸術劇場	
	松本 知子		開館年 2003 年	
No.	〒 803-0812		大ホール	1269席/8,026㎡
17	北九州市小倉北区室町1丁目1-11		中劇場	700席/5,496㎡
	TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		小劇場	96~216席/1,285㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

40.福岡県	でぐち みゆき	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課 文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ	
	出口 美幸		開館年 1996 年	
No.	〒 816-0934		大ホール	798席/1279㎡
18	大野城市曙町2丁目3番1号		小ホール	118席/208㎡
	TEL 092-586-4000 / FAX 092-586-4021		多目的ホール	300席/279㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

(2) 自主事業コース

01.北海道	さかもと こうき 坂本 晃基	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 管理課 舞台係	札幌市教育文化会館 開館年 1977 年 大ホール 1100席/3008㎡ 小ホール 360席/990㎡
	No. 1	〒 060-0062 札幌市中央区南2条西13丁目319南大通ビル二条館4階 TEL 011-271-5821 / FAX 011-271-1916	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
01.北海道	かわはら あきえ 河原 明恵	特定非営利活動法人ゆう 総務企画	砂川市地域交流センターゆう 開館年 2007 年 大ホール 500席/686㎡ ミニホール 100席/138㎡
	No. 2	〒 073-0153 砂川市東3条北2丁目3-3 TEL 0125-54-3111 / FAX 0125-54-3119	自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
07.福島県	すずき すみれ 鈴木 董	いわき市 いわき芸術文化交流館 企画協働課企画制作グループ	いわき芸術文化交流館 アリオス 開館年 2008 年 大ホール 1705席/9190.18㎡ 中劇場 687席/4405.59㎡ 小劇場 200席/2174.43㎡
	No. 3	〒 970-8026 いわき市平字三崎1番地の6 TEL 0246-22-7417 / FAX 0246-22-8181	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
16.富山県	しみず りょうたろう 清水 遼太郎	公益財団法人富山県文化振興財団 主事 ホール担当	富山県教育文化会館 開館年 1974 年 富山県教育文化会館ホール 621席/140㎡
	No. 4	〒 930-0096 富山市舟橋北町7番1号 TEL 076-441-8635 / FAX 076-441-8184	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
17.石川県	きのした こずえ 木下 梢	公益財団法人金沢芸術創造財団 事業課 主事	金沢歌劇座 開館年 1962 年 金沢歌劇座 1919席/10,308.86㎡ 大集会室 270席/363.5㎡ 大練習室 90席/177㎡
	No. 5	〒 920-0999 金沢市柿木畠1-1 TEL 076-223-9898 / FAX 076-261-5233	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
20.長野県	くらしま わかな 倉島 和可奈	一般財団法人長野県文化振興事業団 企画広報課 主事	長野県県民文化会館（ホクト文化ホール） 開館年 1983 年 大ホール 1971席/2652㎡ 中ホール 984席/1676㎡ 小ホール 300席/286㎡
	No. 6	〒 380-0928 長野市若里1-1-3 TEL 026-226-0008 / FAX 026-226-1574	自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
20.長野県	みやざわ みずき 宮澤 瑞希	一般財団法人長野県文化振興事業団 事業課 主事	長野県伊那文化会館 開館年 1988 年 大ホール 1371席/-㎡ 小ホール 436席/420㎡ 美術展示ホール 0席/522㎡
	No. 7	〒 380-0928 長野市若里1-1-3 ホクト文化ホール内 TEL 0265-73-8822 / FAX 0265-73-8599	自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
25.滋賀県	ふじわら のぞみ 藤原 望美	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 びわ湖ホール事業部 普及担当 主事	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 開館年 1998 年 大ホール 1848席/2164㎡ 中ホール 804席/871.5㎡ 小ホール 323席/61.5㎡
	No. 8	〒 520-0806 大津市打出浜15-1 TEL 077-523-7152 / FAX 077-523-7147	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

26.京都府	いとう あやね 伊藤 文音	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都コンサートホール 事業企画課	京都コンサートホール 開館年 1995 年 京都コンサートホール 大ホール 1833席/1620㎡
	No. 9	〒 606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26 TEL 075-707-6430 / FAX 075-711-2955	京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ 510席/414㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
27.大阪府	さだかた りさ 貞方 里沙	公益財団法人堺市文化振興財団 企画制作担当課	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺） 開館年 2019 年 大ホール 2,000席/1,892㎡
	No. 10	〒 590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1 TEL 072-232-0220 / FAX 072-223-1005	小ホール 312席/481㎡ 大スタジオ 220席/289㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
32.島根県	にった なおこ 新田 直子	公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場 文化事業課 主任	島根県芸術文化センター「グラントワ」 開館年 2005 年 いわみ芸術劇場 大ホール 1500席/342㎡
	No. 11	〒 698-0022 益田市有明町5-15 TEL 0856-31-1860 / FAX 0856-31-1884	いわみ芸術劇場 小ホール 400席/156㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
32.島根県	ふじわら かなみ 藤原 香奈海	公益財団法人しまね文化振興財団 島根県民会館 文化事業課 主事	島根県民会館 開館年 1968 年 大ホール 1537席/1540㎡
	No. 12	〒 690-0887 松江市殿町158 島根県民会館 TEL 0852-22-5508 / FAX 0852-24-0109	中ホール 576席/686㎡ 大会議室 180席/282.3㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
34.広島県	はましま りょうた 濱島 亮太	公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団 文化ホール 企画員	はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ 開館年 1997 年 大ホール 1095席/277㎡
	No. 13	〒 738-8509 廿日市市下平良1丁目11-1 TEL 0829-20-0111 / FAX 0829-32-7160	小ホール 296席/74㎡ リハーサル室 0席/105㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
39.高知県	やました ゆうや 山下 裕矢	香南市生涯学習課 夜須公民館マリンホール 館長	香南市夜須公民館マリンホール 開館年 1989 年 マリンホール 610席/600㎡
	No. 14	〒 781-5601 香南市夜須町坪井219 TEL 0887-54-2121 / FAX 0887-54-1266	自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
40.福岡県	あない とよたろう 穴井 豊太郎	久留米市 市民文化部 久留米シティプラザ事業制作課 会計年度任用職員	久留米シティプラザ 開館年 2016 年 ザ・グランドホール 1,514席/—㎡
	No. 15	〒 830-0031 久留米市六ツ門町8-1 TEL 0942-36-3084 / FAX 0942-36-3087	久留米座 399席/—㎡ Cボックス 144席/—㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

01.北海道	おおいし たくや 大石 琢也	公益財団法人札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 管理課 業務係長	札幌コンサートホール 開館年 1997 年
	No. 1 〒 064-8649 札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		大ホール 2008席/2,241㎡ 小ホール 453席/758㎡ 大リハーサル室 0席/292.50㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
01.北海道	やまき まさひろ 八巻 公史	特定非営利活動法人ゆう 事務局長	砂川市地域交流センターゆう 開館年 2007 年
	No. 2 〒 073-0153 砂川市東3条北2丁目3-3 TEL 0125-54-3111 / FAX 0125-54-3119		大ホール 500席/686㎡ ミニホール 100席/138㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
14.神奈川県	いこはぎ ひろし 井小萩 浩之	公益財団法人川崎市文化財団 ミュージア川崎シンフォニーホール 事業企画課 課長補佐	ミュージア川崎シンフォニーホール 開館年 2004 年
	No. 3 〒 212-8557 川崎市幸区大宮町1310 TEL 044-520-0100 / FAX 044-520-0103		音楽ホール 1997席/260㎡ 市民交流室 150席/136.5㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
20.長野県	みどりかわ きみこ 緑川 喜美子	上田市 文化スポーツ観光部 交流文化芸術センター 副館長	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター 開館年 2014 年
	No. 4 〒 386-0025 上田市天神3丁目15番15号 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310		大ホール 1530席/920㎡ 小ホール 320席/240㎡ 大スタジオ 平土間席/250㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
23.愛知県	くりばやし まさひろ 栗林 昌弘	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 事務局長	知立市文化会館 パティオ池鯉鮒 開館年 2000 年
	No. 5 〒 472-0026 知立市上重原町間瀬口116番地 TEL 0566-83-8100 / FAX 0566-83-8110		かきつばたホール 1004席/225㎡ 花しょうぶホール 293席/82㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
27.大阪府	ののあざみ (うえだひろみ) ののあざみ (植田宏美)	アクティオ株式会社 大阪府立芸術創造館 館長	大阪府立芸術創造館 開館年 2000 年
	No. 6 〒 535-0003 大阪市旭区中宮1丁目11番24号 TEL 06-6955-1066 / FAX 06-6955-7901		大練習室 126席/180㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
27.大阪府	なかの いくよ 中野 郁代	公益財団法人堺市文化振興財団 堺市民芸術文化ホール 副館長	堺市民芸術文化ホール (フェニーチェ堺) 開館年 2019 年
	No. 7 〒 590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1 TEL 072-232-0220 / FAX 072-223-1005		大ホール 2000席/1,892㎡ 小ホール 312席/481㎡ 大スタジオ 220席/287㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	たかなし のぶひろ 高梨 修宏	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業部 文化ホール事業課 課長代理	神戸文化ホール 開館年 1973 年
	No. 8 〒 650-0017 神戸市中央区楠町4-2-2 TEL 078-351-3397 / FAX 078-351-3121		神戸文化ホール・大ホール 2,043席/5,564㎡ 神戸文化ホール・中ホール 904席/3,592㎡ 新開地アートひろば ホール 232席/303㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満

28.兵庫県	みかさ よしこ	特定非営利活動法人コミュニティアートセンターブラッツ 事務局長	豊岡市民プラザ
	三笠 孔子		開館年 2016 年 ほっとステージ 250席/236㎡
No. 9	〒 668-0031 豊岡市大手町4-5 アイティ7F 豊岡市民プラザ内 TEL 0796-34-6078 / FAX 0796-24-3004		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
31.鳥取県	たけうち しのぶ	公益財団法人鳥取県文化振興財団 技術管理部 舞台技術室 主幹	とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）
	竹内 忍		開館年 1993 年 梨花ホール 2000席/3,925㎡ 小ホール 500席/391.6㎡
No. 10	〒 680-0017 鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	わだ まさひろ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 総務文化部長 兼 北九州芸術劇場劇場支配人	北九州芸術劇場
	和田 将洋		開館年 2003 年 大ホール 1269席/8,026㎡ 中劇場 700席/5,496㎡ 小劇場 96~216席/1,285㎡
No. 11	〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-3016 / FAX 093-562-3017		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
44.大分県	こじま そうた	公益財団法人竹田市文化振興財団 業務マネージャー	竹田市総合文化ホール グランツたけた
	小島 聡太		開館年 2018 年 廉太郎ホール（大ホール） 713席/3153㎡ キナーレ（多目的ホール） 170席/277㎡
No. 12	〒 878-0024 竹田市大字玉来1番地1 TEL 0974-63-4837 / FAX 0974-63-2211		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

V 参加者リスト

2 ステージラボ 岡山セッション

(1) ホール入門コース

01.北海道	かんばやし ゆき 上林 由季	公益財団法人札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 管理課 業務係	札幌コンサートホール 開館年 1997 年 大ホール 2008席/2,241㎡ 小ホール 453席/758㎡ 大リハーサル室 0席/292.50㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 1	〒 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575	
06.山形県	いのうえ あやこ 井上 理子	タクトつるおか共同企業体 事業企画 主事	荘銀タクト鶴岡 開館年 2018 年 大ホール 1120席/1700㎡ 小ホール 180席/247㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 2	〒 997-0035 鶴岡市馬場町11-61 TEL 0235-24-5188 / FAX 0235-25-7611	
12.千葉県	ざこ りな 座古 里奈	公益財団法人千葉市文化振興財団 アーツステーション室 主事	千葉市文化センター 開館年 1989 年 アートホール 497席/117㎡ スタジオ I 100席/150㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 3	〒 260-0013 千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館 TEL 043-221-2411 / FAX 043-224-8231	
20.長野県	かきざわ わかな 柿澤 和奏	一般財団法人長野県文化振興事業団 管理運営課 主事	長野県県民文化会館（ホクト文化ホール） 開館年 1983 年 大ホール 1971席/3692㎡ 中ホール 984席/2336㎡ 小ホール 300席/396㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 4	〒 380-0928 長野市若里1-1-3 TEL 026-226-0008 / FAX 026-226-1574	
20.長野県	すぎき みれい 杉木 美嶺	上田市 文化スポーツ観光部 交流文化芸術センター 音楽事業担当	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター 開館年 2014 年 大ホール 1530席/920㎡ 小ホール 320席/240㎡ 大スタジオ 平土間席/250㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 5	〒 386-0025 上田市天神3丁目15番15号 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310	
22.静岡県	さとう ひこ 佐藤 飛子	公益財団法人静岡県舞台芸術センター 制作部	静岡芸術劇場／静岡県舞台芸術公園 開館年 1997 年 静岡芸術劇場 401席/264.06㎡ 野外劇場「有度」 400席/230.598㎡ 屋内ホール「楢円堂」 110席/113.511㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 6	〒 422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 TEL 054-203-5730 / FAX 054-203-5732	
23.愛知県	わしの ひなた 鷲野 ひなた	公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田市民文化会館 書記	豊田市民文化会館 開館年 1975 年 大ホール 1704席/342㎡（舞台） 小ホール 436席/140㎡（舞台） 多目的ホール 定員150名/301㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 7	〒 471-0035 豊田市小坂町12-100 TEL 0565-33-7111 / FAX 0565-35-4801	
23.愛知県	はっとり ありさ 服部 有沙	公益財団法人かすがい市民文化財団 施設サービスグループ	春日井市民会館／文化フォーラム春日井 開館年 1965 年 春日井市民会館 1022席/3852.564㎡ 視聴覚ホール 198席/274㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 8	〒 486-0844 春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213	

27.大阪府	おおにし あすか 大西 明日香	サントリーパブリシティサービス株式会社 文化ハビネス事業部文化・地域共創部 ホール事業担当	茨木市文化・子育て複合施設おにクル
			開館年 2023 年 ゴウダホール (大ホール) 1201席/650.4㎡ きたしんホール (多目的ホール) 245席/291.1㎡
No. 9	〒 567-0888 茨木市駅前3-9-45 TEL 072-631-0296 / FAX 072-622-2922		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
31.鳥取県	しんき ななこ 新木 菜々子	公益財団法人鳥取県文化振興財団 とりアート事務局 兼 企画制作部文化事業課主事	鳥取県立倉吉未来中心
			開館年 2001 年 大ホール 1503席/832㎡ 小ホール 310席/121㎡
No. 10	〒 682-0816 倉吉市駄経寺町212-5 TEL 0858-23-5391 / FAX 0858-47-0255		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
32.島根県	たけたに しおり 竹谷 栞	公益財団法人しまね文化振興財団 島根県民会館 文化事業課 主事	島根県民会館
			開館年 1968 年 大ホール 1537席/1540㎡ 中ホール 576席/686㎡ 展示ホール 150席/226.6㎡
No. 11	〒 690-0887 松江市殿町158 TEL 0852-22-5502 / FAX 0852-24-0109		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
33.岡山県	おかもと えみ 岡本 愛美	公益財団法人岡山文化芸術創造 岡山芸術創造劇場 事業グループ 営業・広報	岡山芸術創造劇場
			開館年 2023 年 大劇場 1753席/5588㎡ 中劇場 807席/2834㎡ 小劇場 約300席/276㎡
No. 12	〒 700-0822 岡山市北区表町3丁目11番50号 TEL 086-201-8014 / FAX 086-201-8004		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
39.高知県	もりおか ゆうき 森岡 祐貴	公益財団法人高知市文化振興事業団 企画事業課・主事	高知市文化プラザかるぼーと
			開館年 2002 年 大ホール 1085席/-㎡ 小ホール 200席/258.7㎡ 市民ギャラリー -席/1435.4㎡
No. 13	〒 781-9529 高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071 / FAX 088-883-5069		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
40.福岡県	おかだ まりあ 岡田 茉梨安	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 劇場事業課	北九州芸術劇場
			開館年 2003 年 大ホール 1269席/8,026㎡ 中劇場 700席/5,496㎡ 小劇場 96~216席/1,285㎡
No. 14	〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
42.長崎県	すえなが まみこ 末永 真美子	長崎市 市民生活部文化振興課	長崎ブリックホール
			開館年 1998 年 大ホール 2002席/1791㎡ 国際会議場 542席/486㎡
No. 15	〒 850-8685 長崎市魚の町4-1 10階 TEL 095-829-1235 / FAX 095-829-1262		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

43.熊本県	やまさき たくや 山崎 拓哉	公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ 主任	熊本県立劇場
			開館年 1982 年
No. 16	〒 862-0971 熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		コンサートホール 1,810席/1,260㎡
			演劇ホール 1,172席/780㎡
			大会議室 380席/390㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
43.熊本県	いわせ たつろう 岩瀬 達郎	NPO法人宇土の文化を考える市民の会 事務	宇土市民会館
			開館年 1972 年
No. 17	〒 869-0433 宇土市新小路町123 TEL 0964-22-0188 / FAX 0964-22-0189		大ホール 729席/447㎡
			大会議室 100席/189㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
45.宮崎県	たけはら おうじろう 竹原 旺治郎	公益財団法人門川ふるさと文化財団 主事	門川総合文化会館
			開館年 1991 年
No. 18	〒 889-0616 東臼杵郡門川町南町6丁目1番地 TEL 0982-63-0002 / FAX 0982-63-5048		大ホール 692席/1954㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
46.鹿児島県	うえだ りょう 植田 遼	楽しむ人の館 管理・庶務	徳之島町文化会館
			開館年 1994 年
No. 19	〒 891-7101 大島郡徳之島町亀津7673 TEL 0997-83-1682 / FAX 0997-83-2682		徳之島町文化会館 ホール 596席/474.62㎡
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
47.沖縄県	さかがみ なりこ 阪上 成子	名護市 地域経済部文化スポーツ振興課 主事	名護市民会館
			開館年 1985
No. 20	〒 905-0014 名護市港2-1-1 TEL 0980-53-5427 / FAX 0980-53-5426		大ホール 1054席/-㎡
			中ホール 500席/-㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

(2) 自主事業コース

01.北海道	いがらし はづき 五十嵐 葉月	公益財団法人札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 劇場事業課 事業係	札幌市民交流プラザ 開館年 2018 年 札幌文化芸術劇場 hitaru 2,302席/1535㎡ クリエイティブスタジオ 175席/448㎡ SCARTSコート 150席/165㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 f. 1億円以上
	No. 1	〒 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 TEL 011-271-1950 / FAX 011-271-1949	
01.北海道	おおたき ゆら 大滝 遊楽	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 管理課 舞台係	札幌市教育文化会館 開館年 1977 年 大ホール 1100席/3,008㎡ 小ホール 360席/990㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 2	〒 060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5821 / FAX 011-271-1916	
07.福島県	むらやま はるか 村山 晴香	いわき市 いわき芸術文化交流館 企画協働課 企画制作グループ	いわき芸術文化交流館アリオス 開館年 2008 年 アルパイン大ホール 1705席/9190.18㎡ 中劇場 687席/4405.59㎡ 小劇場 200席/2174.43㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 3	〒 970-8026 いわき市平字三崎1番地の6 TEL 0246-22-8111 / FAX 0246-22-8181	
09.栃木県	おか えみこ 岡 恵美子	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 文化振興課 主任	栃木県総合文化センター 開館年 1991 年 メインホール 1,604席/388㎡ (舞台) サブホール 512席/225㎡ (舞台) 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 4	〒 320-8530 宇都宮市本町1-8 TEL 028-643-1010 / FAX 028-643-1012	
13.東京都	あべ はるか 安部 晴夏	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団 芸術振興事業課せんがわ劇場制作係	調布市せんがわ劇場 開館年 2008 年 調布市せんがわ劇場 121席/188㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 5	〒 182-0002 調布市仙川町1丁目21-5 TEL 03-3300-0611 / FAX 03-3300-0614	
15.新潟県	やまざき しょうこ 山崎 彰子	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業企画部 舞踊企画課	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 開館年 1998 年 コンサートホール 1884席/-㎡ 劇場 868席/-㎡ 能楽堂 382席/-㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 6	〒 951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番2 (白山公園内) TEL 025-224-7000 / FAX 025-224-5626	
16.富山県	まき せいじろう 牧 誠二郎	公益財団法人高岡市民文化振興事業団 事業課・主事	高岡市生涯学習センター (ホール施設) 開館年 2004 年 高岡市生涯学習センター (ホール施設) 415席/1919㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 7	〒 933-0023 高岡市末広町1番7号 高岡市生涯学習センター3階 TEL 0766-20-1560 / FAX 0766-20-1562	
20.長野県	やまだ あつこ 山田 敦子	一般財団法人長野県文化振興事業団 事業課 係長	長野県伊那文化会館 開館年 1988 年 大ホール 1371席/551㎡(舞台) 小ホール 436席/420㎡ 美術展示ホール 0席/522㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 8	〒 396-0026 伊那市西町5776 TEL 0265-73-8822 / FAX 0265-73-8599	

22.静岡県	わたなべ あすな 渡邊 亜沙	公益財団法人静岡市文化振興財団 静岡音楽館AOI 学芸員	静岡音楽館AOI 開館年 1995 年 静岡音楽館AOI 618席/676㎡
	No. 9 〒 420-0851 静岡市葵区黒金町1-9 TEL 054-251-2200 / FAX 054-253-3322		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
27.大阪府	こんどう そら 近藤 空	公益財団法人堺市文化振興財団 フェニーチェ堺 企画制作担当課 広報・営業担当	フェニーチェ堺 (堺市民芸術文化ホール) 開館年 2019 年 大ホール 2000席/1892㎡ 小ホール 312席/481㎡ 大スタジオ 220席/289㎡
	No. 10 〒 590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1 TEL 072-232-0220 / FAX 072-223-1005		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	きやむら ゆうか 木屋村 優花	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 業務部	兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター) 開館年 1978 年 大ホール 396席/648㎡ 中ホール 200席/225㎡ 小ホール 100席/178㎡
	No. 11 〒 661-0012 尼崎市南塚口町3-17-8 TEL 06-6426-1940 / FAX 06-6426-1943		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	やまもと かずま 山本 和馬	公益財団法人神戸市民文化振興財団 ギャラリー・アトリエ事業担当	新開地アートひろば (旧:神戸アートビレッジセンター) 開館年 1996 年 ホール 232席/303㎡ ギャラリー 60席/129㎡ リハーサル室2 90席/189㎡
	No. 12 〒 652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14 TEL 078-512-5500 / FAX 078-512-5356		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
28.兵庫県	ふじもと けいこ 藤本 慶子	公益財団法人姫路市文化国際交流財団 制作チーム	バルナソスホール (姫路市立姫路高等学校音楽ホール) 開館年 1989 年 バルナソスホール (姫路市立姫路高等学校音楽ホール) 804席/240㎡
	No. 13 〒 670-0083 姫路市辻井9丁目1番10号 TEL 079-297-1141 / FAX 079-297-8083		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
28.兵庫県	おだはら みほ 小田原 美穂	公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 嘱託職員	東りいたみホール 開館年 1998 年 大ホール 1202席/432㎡ 中ホール 126席/230㎡ 多目的ホール 100席/180㎡
	No. 14 〒 664-0895 伊丹市宮ノ前1丁目1番3号 TEL 072-778-8788 / FAX 072-778-8585		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
33.岡山県	おかもと りの 岡本 璃乃	公益財団法人岡山文化芸術創造 岡山芸術創造劇場 事業グループ 制作・学芸	岡山芸術創造劇場 開館年 2023 年 大劇場 1753席/5588㎡ 中劇場 807席/2834㎡ 小劇場 約300席/276㎡
	No. 15 〒 700-0822 岡山市北区表町3丁目1番50号 TEL 086-201-8014 / FAX 086-201-8004		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
34.広島県	わたなべ ちなみ 渡邊 ちなみ	公益財団法人ふくやま芸術文化財団 ふくやま芸術文化ホール事業課 主事	ふくやま芸術文化ホール (リーデンローズ) 開館年 1994 年 大ホール 2003席/1720㎡ 小ホール 312席/395㎡
	No. 16 〒 720-0802 福山市松浜町2丁目1番10号 TEL 084-928-1800 / FAX 084-928-1801		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

40.福岡県	もりした きょうこ 森下 響子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 劇場事業課	北九州芸術劇場
	No. 17	〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633	開館年 2003 年 大ホール 1269席/8026㎡ 中劇場 700席/5496㎡ 小劇場 96~216席/1285㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
42.長崎県	とみなが げんき 富永 元樹	長崎市 市民生活部文化振興課	長崎ブリックホール
	No. 18	〒 850-8685 長崎市魚の町4-1 10階 TEL 095-829-1235 / FAX 095-829-1262	開館年 1998 年 大ホール 2002席/1791㎡ 国際会議場 542席/486㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
42.長崎県	わごう なおき 和合 直樹	公益財団法人佐世保地域文化事業財団 事業課・課長代理	アルカス S A S E B O
	No. 19	〒 857-0863 佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111 / FAX 0956-24-0051	開館年 2001 年 大ホール 2000席/9000㎡ 中ホール 500席/2023㎡ イベントホール 350席/1364㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

令和5年度ステージラボ
～公共ホール等企画運営ワークショップ～
事業報告書

編集・発行

一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9階
電話 03-5573-4093
ファクシミリ 03-5573-4060

発行日

令和6（2024）年5月発行